北海道芸術デザイン専門学校　教科目概要（授業カリキュラム）

職業実践専門課程　環境デザイン学科（2年制）

クラフトデザイン専攻

教科目		概要	1年次	2年次
工芸概論		伝統工芸の基礎知識、技法を学び、演習課題を通して継承されている手仕事の技術を学ぶ。	○	
クラフトデザイン演習		クラフトデザインの歴史、素材背景を木工、金工、貴金属工芸、陶芸の分野において学ぶ。また生活工芸品という人と物との関わり方の理解を深める。	○	
DTP演習Ⅰ		Illustrator、Photoshopのグラフィックソフトの基礎操作を習得。各クリエイター能力試験取得を目指す。	○	
DTP演習Ⅱ		Illustrator、Photoshopのグラフィックソフトを使い、画像やテキストを編集する能力を身につけ、各クリエイター能力試験取得を目指す。		○
CAD演習		三面図の作図から3Dモデルまで、CADソフトによる家具デザイン、システム理論、操作方法を学ぶ。CAD検定取得を目指す。		○
デッサン		描画技法の基礎授業。対象の観察にはじまり、形態や空間の把握と描写力を身につけ、質感、量感、動静の表現力を養う。	○	
造形デザイン		平面構成、立体構成、造形の基礎知識を演習課題を通して身につける。	○	
製図デザイン		JISに基づく製図法を用いて三面図の作図と各種透視図法を学び、さらに図面から実制作まで一連に行うことで具現化への理解を深める。	○	
立体表現		立体造形の基礎授業。可塑剤を使いながら三次元の演習課題に取り組み、表現の拡張と、それに伴う要件の解決を考えることが目的。	○	
木工基礎演習		木材の基礎知識、木工技術の基礎技法、道具の使い方を演習課題を通して学ぶ。	○	
陶芸基礎演習		陶土、釉薬、焼成方法の基礎知識、陶芸の基礎技法、道具の使い方を学ぶ。	○	
鋳造基礎演習		銀を使って、アクセサリー基礎演習課題制作。ロストワックス技法の習得を目指す。	○	
金属加工基礎演習		金属の知識、加工技術を学ぶ。切削、ジョイントを主体に道具の使い方を演習課題を通して学ぶ。	○	
木工演習Ⅰ		スツールや箱の課題制作を行い、木材の加工、組み立て方、仕上げの流れを学び、段階的に技術向上を目指す。	○	
陶芸演習Ⅰ		ろくろの基礎技法を茶碗やカップなどの課題制作を通して身につける。	○	
金工演習Ⅰ		金属の工芸技法である、鍛金-たんきん-を課題制作で学ぶ。	○	
鋳造演習Ⅰ		基礎演習に引き続き、ロストワックス技法での演習課題を行う。基本形から装身具としての機能を持ったオリジナルデザインを制作。	○	
陶芸演習Ⅱ		工芸的な技法を取り入れながら、様々な土や、釉薬を使うことによって性質理解と技術向上を目指す。	○	
金工演習Ⅱ		様々な金属を使い表札を制作。その加工技法で、性質理解と技術向上を目指す。	○	
工芸研究（選択）	木工演習Ⅱ	多様な木材の知識、加工技術を基に演習を通してツールボックス制作を行う。	○	
	貴金属加工演習	宝飾、彫金技法の基礎を学ぶ。バーナーによるロー付けを主体に、課題制作では技術理解をすすめる。知識として貴金属(金やプラチナ、銀)、宝石を学ぶ。		
プランニング		デザイン製品を実制作するまでの過程を学ぶ。企画立案から素材研究、製品の試作、完成品の提出とプレゼンテーションを行う。	○	
プレゼンテーションⅠ		情報発信のスキルを向上する授業。他者に向けて伝える力、伝わる表現方法を実践的に学ぶ。		○
プレゼンテーションⅡ		テーマコンセプトを明確にし、三面図や完成予想図をともなった資料作りから発表までを行い、技術向上を目指す。また就職に向けてのポートフォリオ制作。		○
プロジェクト計画		ラフ案から具体案を打ち出し、試作を行って本作へ進む、一連の開発の手法を学び、実践的な力を養う。		○
色彩演習		デザイン構成要素、色彩について基礎的な理論を学ぶとともに、色彩士検定3級取得を目指す。	○	

北海道芸術デザイン専門学校　教科目概要（授業カリキュラム）

環境デザイン		社会や人との関わり合いを学び、コミュニケーション能力を高める総合学習。ものづくりの背景理解として地域と資源活用、暮らしと生活について、課題研究、成果発表を行う。	○	
空間表現		作品制作において、要素、素材、技法による造形的可能性を広げる目標を持つ。演習課題での造形物制作では、イメージを伝達できる力をさらに高める。		○
専門技術演習（選択科目）	木工演習Ⅲ	本格的な家具を作る演習授業。大型機械の実践的な使用、冶具制作、旋盤加工を学ぶ。		6科目選択
	陶芸演習Ⅲ	登り窯焼成を学ぶため、作品制作から薪で焚く窯の性質を学び、焼成作業まで一連の制作過程の理解を深める。		
	鋳造演習Ⅲ	宝飾に要する成形や石留技法といった彫金の加工方法を学ぶ。		
	金工演習Ⅲ	演習課題制作を通して、銅、アルミニウム、鉄、それぞれの加工方法を広く学ぶ。		
	木工演習Ⅳ	本格的な家具を作る演習授業。特殊電動工具などの実践的な使用、冶具制作、組み立てに関する接ぎ手の技法を学ぶ。		
	陶芸演習Ⅳ	組み物、大型作品や注器などの制作に取り組み、型づくり、展開図など造形技法を学ぶ。酸化、還元などの焼成方法も学ぶ。		
	鋳造演習Ⅳ	ロストワックス製法を中心に、異素材を組み合わせたオリジナル装飾品制作し、スキルアップを図る。		
	金工演習Ⅳ	象嵌、杢目金といった、伝統的な金属加工の技法を学ぶ。		
	木工演習Ⅴ	伝統的な生活工芸品を制作。手道具から特殊電動工具などの実践的な使用、冶具制作、組み立てに関する接ぎ手の技法を学ぶ。		
	鋳造演習Ⅴ	ロストワックス製法を中心に、石留リング、セット物の制作といった、実践的な課題制作に取り組む。		
	金工演習Ⅴ	鉄を素材にした課題制作で、アーク溶接、TIG溶接といった機械加工の技術を学ぶ。		
	造形演習Ⅰ	可塑剤、実材を組み合わせた課題制作を通して、そこから得られる気づきや発見を発表する研究の取り組み。		
	造形演習Ⅱ	合板を使って、玩具やパズルを制作。様々なクラフト品の可能性を広げる授業。		
	素材研究Ⅰ	成形方法の知識を広げる課題に取り組む。型をつかった大型鋳造、屋外で行う縄文式野焼きに取り組み、準備や手順の内容を理解する。		
	素材研究Ⅱ	地域、社会、人との関わり合いをものづくりを通して研究する。行政、企業からのデザイン課題やコンペ課題に取り組み、実践的な制作を行う。		
進級制作		実材作品、プレゼンテーション資料など規定の課題数を提出、発表を行う。1年次最終課題でもあり、1年間の総合的な学習成果が求められる。	○	
卒業制作		在学中に学んだ専門知識技術などの専攻色を十分に生かして、自らテーマを設定した数週間の長期制作。まさに各自のメモリアルワークとなる。		○
一般教養	英語	アート、デザインの視点で、英語の運用能力を養う。	○	
	一般教養	社会人としての一般教養、常識、礼儀等を学ぶ。	○	
	前期課題制作	日常の実習を通し学んだ発想・技法を生かし、前期の総まとめとして、課題制作をする。	○	○
	後期課題制作	日常の実習を通し学んだ発想・技法を生かし、後期の総まとめとして、課題制作をする。		○
	企業研究	企業としての考え方、仕事の仕方を情報収集する。講習会やワークショップに参加し、最新の企業の取り組みを知る。		○
	業界研究	業界と職種の構成。企業が望む人物像を学ぶとともに、自分の希望業種、職種を理解し、就職活動目標を定める。		○
総履修時間			1200	1200

取得目標資格	在学時：建築CAD検定、ガス溶接技能者、Illustratorクリエイター能力認定試験、福祉住環境コーディネーター、色彩士検定、ビジネス能力検定ジョブパス　有機溶剤作業主任者講習、貴金属装身具製作技能士など

※1年間で1,200単位時間、2年間で2,400単位時間学びます。

※時勢や企業のニーズにより、内容が変更になることがあります。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

専門課程　環境デザイン学科 クラフトデザイン専攻

授業科目名	区分		配当年次	授業時数
	必修	選択	・学期	
工芸概論	○		1年・前期	60
DTP演習Ⅰ	○		1年・後期	30
DTP演習Ⅱ	○		2年・前期	30
CAD演習	○		2年・前期	60
木工基礎演習	○		1年・前期	60
陶芸基礎演習	○		1年・前期	60
鋳造基礎演習	○		1年・前期	60
金属加工基礎演習	○		1年・前期	60
木工演習Ⅰ	○		1年・後期	30
陶芸演習Ⅰ	○		1年・後期	30
鋳造演習Ⅰ	○		1年・後期	30
金工演習Ⅰ	○		1年・後期	30
陶芸演習Ⅱ	○		1年・後期	30
金工演習Ⅱ	○		1年・後期	30
工芸研究				
木工演習Ⅱ		○	1年・後期	30
貴金属加工演習				
プランニング	○		1年・前期	60
環境デザイン	○		1年・後期	30
専門技術演習(6科目選択)				
木工演習Ⅲ		○	2年・前期	360
陶芸演習Ⅲ				
鋳造演習Ⅲ				
金工演習Ⅲ				
木工演習Ⅳ				
陶芸演習Ⅳ				
鋳造演習Ⅳ				
金工演習Ⅳ				
木工演習Ⅴ				
鋳造演習Ⅴ				
金工演習Ⅴ				
造形演習Ⅰ				
造形演習Ⅱ				
素材研究Ⅰ				
素材研究Ⅱ				
英語	○		1年・前期	30
合　計				1110

学校名	北海道芸術デザイン専門学校
設置者名	学校法人　美専学園

○成績管理の実施及び公表の概要

１．授業計画書の作成・公表に係る取組の概要	
■授業計画の作成 ・各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。 ・シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。 ・シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。 １月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。３月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。８月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。 ■授業計画の公表 各専攻の教科目概要･シラバス･実務経験のある教員等による授業科目の一覧を本校 web サイトの各専攻紹介ページで公開	
授業計画書の公表方法	本校 web サイトの各専攻紹介ページで公開
２．授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要	
学則第 12 条・13 条に基づき以下の方法で認定。 ■各教科の履修認定 ・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。 ・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。 ・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。 ■進級の認定 ・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。	
３．客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要	
■客観的な指標の設定・公表 ・履修科目の５段階の成績評価をつぎの配点で GP（ポイント）化する。 秀→5.0 優→4.0 良→3.0 可→2.0　不可→1.0 GPA は次の計算式に従い算出する。 GPA＝(GP×科目の単位数)/履修科目の単位数の合計 ※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目は GP＝1.0 とする。 ■成績評価の適切な実施に係る取組 ・成績管理システムで上記 GPA 算出式による GPA 帳票出力を行う ・GPA 帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	本校 web サイトにて公開
４．卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要	
卒業認定の方針 ・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき合否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。 ■卒業の認定に係る取組 ・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。 ・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。 ・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	本校 web サイトにて公開

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 武田　享恵　（非常勤講師）
実務経験: 金工家　金属品製造会社にて修行後　銅、アルミ 、錫製の特注茶道具、オリジナル工芸品を制作販売。展示会多数開催。

科目名 : 工芸概論

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 伝統工芸の技法を演習課題を通して身につける。道具の使い方、素材の使い方、先人から引き継がれてきた手仕事における知恵と工夫を直に感じ、また産地の特性も含めた日本の文化、産業の歴史を学ぶ。

■到達目標: 基本的な手工具、機械工具、火の扱い方の習得をする。課題に対して正しく加工し、組み立てにおける精度を上げ、着色技法まで一連のながれをつかむことで、金属工芸の加工法、基本的な技術の習得を目指す。

■授業計画:

第1回　金工三大分野におけるそれぞれの作業内容の違いと作品の違いについて解説。

第2回　50㎥の箱を制作。ノギス、スコヤ、ケガキなど、正確に計測する道具の名前と使用法。地金からパーツを切り出す。

第3回　6枚の銅板の加工①　正方形を正確に手やすりで加工　断面(組み立て接合面)の精度を出す。

第4回　6枚の銅板の加工②

第5回　6枚の銅板の加工③

第6回　6枚の銅板の加工④

第7回　6枚の銅板の加工⑤

第8回　バーナーの取り扱いと、火力の説明、並びにロー付け技法の解説。ロー付けで銅板を接合し、立方体に組み立てる①

第9回　ロー付けで銅板を接合し、立方体に組み立て②

第10回　ロー付けで銅板を接合し、立方体に組み立て③

第11回　ロー付けで銅板を接合し、立方体に組み立て④

第12回　蓋部の加工の説明。加工を行う。

第13回　内箱として真鍮の箱を制作。制作方法は銅板と同様であるがロー付けはせず板をはめ

第14回　金属の仕上げについて、着色方法を解説。箱全体を研磨し、仕上げ加工を行う。

第15回　箱全体を研磨し、仕上げ加工を行う。 合評

■教科書: 指定なし

■参考書: 金工の伝統技法（理工学社） 工芸(武蔵野美術出版） ほか

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 高橋　美絵/桂　充子　（専任教員）
実務経験:

科目名 :	クラフトデザイン演習

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １ 年次
開講学期: 後期
授業時数: ３０ 時間
単　　位: １ 単位

■科目概要: クラフトデザインの歴史、素材背景を木工、金工、貴金属工芸、陶芸の分野において学ぶ。また生活工芸品という人と物との関わり方の理解を深める。

■到達目標: 手作りを基本としながらも、反復製作ができるデザインの考え、行為を学ぶ。また、制作だけではなくクラフトデザインが、関わり合いを持つ場の広がりも考える。地域産業との連携、使われ方、見方に関して、新しい価値の創造をもてるよう、課題演習を通して理解を深める。

■授業計画:

第1回	クラフトデザイン概論:陶芸・木材工芸の起源や歴史、工人、職人の仕事を知る演習シート作成。特に安土桃山時代から江戸時代を経て続く、日本人の美意識の流れをつかむ。
第2回	クラフトデザイン概論:金属工芸・ジュエリーアクセサリーの起源や歴史、工人、職人の仕事を知る演習シート作成。特に安土桃山時代から江戸時代を経て続く、日本人の美意識の流れをつかむ。
第3回	現代工芸の理解:素材の可能性、手法の発展を図版を解説。
第4回	現代工芸の理解:調査・グループワーク
第5回	現代工芸の理解:発表
第6回	地域産業の理解:森の環境を知る。製材工場を見学
第7回	地域産業の理解:森の環境を知る。地域材活用の取り組みとして、道南杉のプロダクトデザイン課題に取り組む。概要説明。
第8回	地域産業の理解:道南杉のプロダクトデザイン課題　エスキース
第9回	地域産業の理解:道南杉のプロダクトデザイン課題　中間発表
第10回	地域産業の理解:道南杉のプロダクトデザイン課題　図面制作
第11回	地域産業の理解:道南杉のプロダクトデザイン課題　模型制作
第12回	地域産業の理解:道南杉のプロダクトデザイン課題　模型制作
第13回	地域産業の理解:道南杉のプロダクトデザイン課題　模型制作
第14回	地域産業の理解:道南杉のプロダクトデザイン課題　プレゼンボード作成
第15回	地域産業の理解:道南杉のプロダクトデザイン課題　発表

■教科書:

■参考書: 日本のクラフト（学研）ほか

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 桂　充子　（専任教員）
実務経験: 前職では文具画材の販売管理、広告制作部門勤務。店舗のリーフレット 制作、店内装飾に携わる。

科目名 : DTP演習 I

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １ 年次
開講学期: 後期
授業時数: ３０ 時間
単　　位: １ 単位

■科目概要: Adobe社Illustlator、Photoshopのグラフィックソフトの基礎操作を習得。

■到達目標: Illustrator、Photoshop（グラフィックソフト）を使い、ビジュアル表現の技能を身につける基礎演習授業。アプリケーション内のツールや各用語の把握、基本操作を学び、文字入力や作図によるグラフィックレイアウトの基礎を覚える。また、情報を取り込み、出力できるようPC周辺機器の操作を理解する。

■授業計画:

第1回　オブジェクトの作図:Illustratorの基本　操作とファイル作成、図形とペンツール使用の直線曲線の作図理解
第2回　オブジェクトの作図:線とカラーリング、オブジェクトの編集操作
第3回　オブジェクトの作図:グラデーション、パターン理解、文字の入力とレイアウト
第4回　練習課題:名刺制作
第5回　アートワーク:画像の配置と編集
第6回　アートワーク:レイヤーの理解
第7回　スキャナーとプリンター操作:下絵や手で作図した描画をスキャン、またプリント出力を理解
第8回　練習問題:Illustratorクリエーター能力試験の模擬問題にチャレンジ　実技問題
第9回　練習問題:Illustratorクリエーター能力試験の模擬問題にチャレンジ　実践問題
第10回　練習問題:Illustratorクリエーター能力試験の模擬問題にチャレンジ　実践問題解答
第11回　オブジェクトの作図:Photoshopの基本　操作とファイル作成、選択ツールの理解
第12回　オブジェクトの作図:画像の補正
第13回　オブジェクトの作図:レイヤーの理解
第14回　オブジェクトの作図:フィルターとレイヤースタイル
第15回　練習問題:DM制作。画像の配置と文字編集。

■教科書: illustrator操作とデザインの教科書(技術評論社)

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 桂　充子　（専任教員）
実務経験: 前職では文具画材の販売管理、広告制作部門勤務。店舗のリーフレット 制作、店内装飾に携わる。

科目名 : DTP演習Ⅱ

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: ２年次
開講学期: 前期
授業時数: ３０時間
単　　位: １単位

■科目概要: Adobe社Illustlator、Photoshopのグラフィックソフトを使って資料制作、ポートフォリオの編集

■到達目標: Illustrator、Photoshop（グラフィックソフト）を使い、ビジュアル表現の技能を高める演習授業。特にillustratorクリエーター能力試験3級取得を目的とする。またプレゼンテーション用の資料を作ることができ、就職活動に使用するポートフォリオの制作も行う。

■授業計画:

第1回　Illustratorクリエーター能力試験対策: 模擬問題・実技問題の解答を解説　ペンツール、グラデーション、図形作成、レイヤー、テキスト編集
第2回　Illustratorクリエーター能力試験対策: 模擬問題・実践問題　ガイド、レイヤー管理、配置やレイアウト、テキスト編集
第3回　Illustratorクリエーター能力試験対策: 模擬問題の練習　実践問題の解答を解説

第4回　Illustratorクリエーター能力試験対策: 模擬問題・実技問題の解答を解説　ペンツール、グラデーション、図形作成、レイヤー、テキスト編集
第5回　Illustratorクリエーター能力試験対策: 模擬問題・実践問題　ガイド、レイヤー管理、配置やレイアウト、テキスト編集
第6回　Illustratorクリエーター能力試験対策: 模擬問題の練習　実践問題の解答を解説

第7回　Photoshoprクリエーター能力試験対策: 模擬問題・実技問題の解答を解説　レイヤー、色調補正、効果、選択の理解
第8回　Photoshoprクリエーター能力試験対策: 模擬問題・実践問題　レイヤー管理、配置やレイアウト、テキスト編集、選択範囲、効果の理解
第9回　Photoshoprクリエーター能力試験対策: 模擬問題の練習　実践問題の解答を解説

第10回　ポートフォリオ制作: プレゼンテーション資料の制作、画像の加工と編集①

第11回　ポートフォリオ制作: プレゼンテーション資料の制作、画像の加工と編集②

第12回　ポートフォリオ制作: プレゼンテーション資料の制作、画像の加工と編集③

第13回　ポートフォリオ制作: プレゼンテーション資料の制作、画像の加工と編集④

第14回　ポートフォリオ制作: プレゼンテーション資料の制作、画像の加工と編集⑤

第15回　ポートフォリオ制作: 提出　チェック

■教科書: illustrator操作とデザインの教科書(技術評論社)

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 今井　正樹　（非常勤講師）
実務経験: ハウスメーカー、ゼネコン、ビルダーの設計を経て、現在は設計事務所として住宅、店舗等の設計管理が業務

科目名 : CAD演習

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: ２年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 設計者の意志を明確に製作者に伝える為のツールである図面をＣＡＤシステムを使って的確に作図及びトレースする。

■到達目標: CADスキル習得の結果として、実技検定試験の合格を目指す。

■授業計画:

第1回	2D基本操作:CADのセットアップと起動、2D基本描画。ツールパレット、サブメニューの解説
第2回	2D復習:用紙設定、図形の編集、作図補助機能、データパレットを用いた数値入力による作図
第3回	3Dモデリング①Red & Blue Chair:3次元座標の考え方、2D図形から3D図形への変換。座標軸と掃引によるオブジェクトの位置関係、レンダリング。
第4回	3Dモデリング②ウォールナットTable:錐状体の作図、Z方向の移動、面取り、テクスチャの取り込み、透視投影法
第5回	CAD検定試験問題練習:JISの建築製図規格について、データ管理、環境設定、用紙サイズと縮尺の設定。線の太さ、線種の使い分け
第6回	CAD検定試験問題練習:図面枠、レイヤー及びクラス管理、グリッド設定、基準点
第7回	CAD検定試験問題練習:基準線、通り芯、方位記号、寸法、通り芯記号
第8回	CAD検定試験問題練習:壁・柱、包絡処理(交点の留め、線の消去)
第9回	CAD検定試験問題練習:間仕切壁、配列複製、鏡像反転、円弧、回転
第10回	CAD検定試験問題練習:階段平面図、段板、踏面、ささら桁、雑線、手摺り
第11回	CAD検定試験問題練習:円弧の寸法記入について、角度の入れ方、破断線
第12回	CAD検定試験問題練習:建具の納まり、ドアの表現、サッシュの表現
第13回	CAD検定試験問題練習:ドア枠、戸当たり、框、チリの取り方
第14回	CAD検定試験問題練習:異なったCAD間での図面交換、線種表現確認
第15回	CAD検定試験問題練習:部品や図形のライブラリ化・グループ化管理(再利用性)、採点チェックポイントの理解、図面全体イメージ

■教科書: 指定なし

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 鴻上宏子　（非常勤講師）
実務経験: 北海道教育大学美術科　卒業　彫刻家

科目名　: **デッサン**

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 描画技法の基礎授業。対象の観察にはじまり、形態や空間の把握と描写力を身につけ、質感、量感、動静の表現力を養う。

■到達目標: 課題制作を通して多く描画経験を積み、美術、デザインの基礎力の定着。

■授業計画:

第1回　オリエンテーション　幾何学的モチーフを描く・鉛筆デッサン①
第2回　幾何学的モチーフを描く・鉛筆デッサン②
第3回　幾何学的モチーフを描く・鉛筆デッサン　合評
第4回　友達を描く・鉛筆素描、人物デッサン①
第5回　友達を描く・鉛筆素描、人物デッサン②
第6回　友達を描く・鉛筆素描、人物デッサン　合評
第7回　木を描く・校外にて樹木の素描①
第8回　木を描く・校外にて樹木の素描②
第9回　木を描く・校外にて樹木の素描③
第10回　木を描く・校外にて樹木の素描④
第11回　木を描く・校外にて樹木の素描　合評
第12回　人物の全体像を短時間でクロッキーレッスン
第13回　静物素描・果物を描く①
第14回　静物素描・果物を描く②
第15回　静物素描・果物を描く　合評

■教科書: 指定なし
■参考書: 指定なし
■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目:
■履修上の留意点:

対象学科: **環境デザイン学科**
対象専攻: **クラフト デザイン専攻**
担当教員: **國松明日香/桂充子** （非常勤講師）
実務経験: 國松: 東京藝術大学卒業　彫刻家

科目名　: **造形デザイン**

履修形態: **必修**
授業形態: **演習**
履修学年: **１ 年次**
開講学期: **前期**
授業時数: **３０ 時間**
単　　位: **１ 単位**

■科目概要: ◆國松：講義と実習において、彫刻・立体造形の基礎を学ぶ。
◆桂：平面構成と立体構成の基礎学習。形態の具現化を行うため、発想を形にするものの見方を養う。

■到達目標: ◆國松：彫刻の持つ社会性や置かれる空間との関係を講義で学び、今後の制作活動への審美眼を養う。◆桂：構成において、デザインを意識する、チェックできるスキルを持つこと。造形とは、素材の形状を変化させ、物体として現れる基本的考えを身につける。

■授業計画:

第1回　平面構成:線の分割構成

第2回　平面構成:ユニット構成

第3回　立体構成:紙の立方体づくり。隣の面同士関わり合いのある穴をあけ、サイコロ型に組み立てる。平面から立体へ変化する空間の有様を意識する。

第4回　「座る」をテーマにフィールドワーク　見立ての感覚を養う

第5回　「座る」をテーマにフィールドワーク　ラフ画を中間発表

第6回　「座る」をテーマにフィールドワーク　模型作り

第7回　「座る」をテーマにフィールドワーク　模型作り　合評

第8回　錫の鋳造　原型と型の関係を知る

第9回　錫の鋳造　作品制作　提出

第10回　特別講義　札幌芸術の森にて作品鑑賞 「パブリックアートについて」

第11回　線材(ステンレスワイヤー)を使って動物の立体表現①

第12回　線材(ステンレスワイヤー)を使って動物の立体表現②

第13回　線材(ステンレスワイヤー)を使って動物の立体表現③

第14回　線材(ステンレスワイヤー)を使って動物の立体表現④

第15回　線材(ステンレスワイヤー)を使って動物の立体表現　合評

■教科書: 指定なし

■参考書: 図形ドリル（学習出版社） 芸術デザインの立体構成（六曜社）

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 木村　一夢　（非常勤講師）
実務経験: 造形作家　画材、文具卸会社での販売、什器制作の実務経験を積む。特注家具、オリジナル装飾品制作販売。

科目名 : 製図デザイン

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 15㎜シナランバーコア合板（910㎜×910㎜)を使用して、木製家具の基礎デザイン、製図、製作。木材組立加工を安全かつ簡略化された手法を用いて感覚をつかむ。製図の基礎から実材を用いた製作へ。

■到達目標:
・図面作成から実制作へ行うため、精度ある仕事の手順理解と、丁寧な作業の必要性を認識し、基礎技術を養う。
・安全な木材加工を覚え、応用へつなげる。

■授業計画:

第1回　「もの」が作り出されるまでの一般的なプロセスを木製家具の場合という具体的事例をあげて説明する。
第2回　製図:ランバーコア合板の特質、主な使われ方の説明。構造、接合法を実材サンプルを用いて説明。基本パターンを基づいて3面図(4面図)、仕口の部分詳細図作成。
第3回　製図:基本パターンを基づいて3面図(4面図)、仕口の部分詳細図作成。
第4回　製図:基本パターンを基づいて3面図(5面図)、仕口の部分詳細図作成。
第5回　制作:木取図の作成。工具、木工機械の正しく安全な使用方法の実演、説明①
第6回　木取:木取図に基づいて木取を行う。横切り盤の安全な使用法の実演、説明②
第7回　仕口加工:ボール盤による穴あけ加工をする①
第8回　仕口加工:ボール盤による穴あけ加工をする②
第9回　組み立て:木口テープを張る。サンドペーパー等を用い材料の表面を整える①
第10回　組み立て:木口テープを張る。サンドペーパー等を用い材料の表面を整える②
第11回　組み立て:サンドペーパー等を用い材料の表面を整える。インパクトドライバー、木ネジを用いて組立①
第12回　組み立て:サンドペーパー等を用い材料の表面を整える。インパクトドライバー、木ネジを用いて組立②
第13回　仕上げ:ダボでビス穴をふさぐ。水性ウレタン塗料、ステイン等で塗装、仕上①
第14回　仕上げ:ダボでビス穴をふさぐ。水性ウレタン塗料、ステイン等で塗装、仕上②
第15回　合評

■教科書: 指定なし
■参考書: 木工技術シリーズ(産調出版)
■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目:
■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 鴻上宏子　（非常勤講師）
実務経験: 北海道教育大学美術科　卒業　彫刻家

科目名　: **立体表現**

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １年次
開講学期: 前期
授業時数: ３０時間
単　　位: １単位

■科目概要: 立体造形の基礎授業。可塑剤を使いながら三次元の演習課題に取り組み、表現の拡張と、それに伴う要件の解決を考えることが目的。

■到達目標: 果物をデッサンした後に、石膏で摸刻を行う。見たままを作るのではなく、果実に因る造型美を彫刻するため、形成の原理を十分に観察し、造型性を探求する事が目的である。構成上の自由を得るため、自然の美と品位とを考える力を培う。

■授業計画:

第1回　果物の造形:石膏彫刻を行う。デッサンをもとにガイドを引き、切削作業の準備をする。
第2回　果物の造形:造形作業
第3回　果物の造形:造形作業
第4回　果物の造形:造形作業
第5回　果物の造形:造形作業
第6回　果物の造形:造形作業
第7回　果物の造形:造形作業
第8回　果物の造形:造形作業
第9回　果物の造形:提出。講評会の後にもう一度作った作品をデッサンし、観察からの描画と造形後の描画の意識の違いを探る。
第10回　描画テクニック:ジュエリーデザイン画/家具、プロダクト製品の描画を演習　線の書き方、明度差の表現、質感の描画法。
第11回　描画テクニック:ジュエリーデザイン画/家具、プロダクト製品の描画を演習　着彩方法
第12回　オリジナル作品を描画
第13回　オリジナル作品を描画
第14回　オリジナル作品を描画
第15回　オリジナル作品を描画・発表

■教科書: 指定なし
■参考書: 指定なし
■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目:
■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 清水　宏晃　（非常勤講師）
実務経験: 木工家　木の家具代表　木材業で製造職を経て、特注家具、オリジナル木製品を制作販売。

科目名　:　木工基礎演習

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 木工に関する工具や機械の使用方法および安全指導。木材を使用し生活道具、工芸品の制作を通して木工基礎技術を養う。

■到達目標: 木工の基礎知識を身に付け、デザインおよび制作ができるようになる。
手工具と木工機械の使用方法を覚え、今後の制作で応用ができるよう繋げる。
期日をまでに作品が完成できるよう、計画性を持って制作に取り組む。

■授業計画:

第1回　ものづくりについて木材を使用した作品など例を挙げ、学生がイメージしやすいよう説明を行う。木材を使ったカトラリー、器のデザイン画を描く。
第2回　デザインや作りたいものの考え方や探し方について指導。引き続きデザイン画作成。
第3回　木材加工：木工室で使用する手工具、電動工具の名称や使い方の説明を行う。
第4回　木材加工：木材の種類や特徴について説明を行う。(広葉樹と針葉樹、無垢材と合板など)木取りが終わり次第、各自作業に取り組む①
第5回　木材加工：手道具にてカトラリー、器の制作②
第6回　木材加工：手道具にてカトラリー、器の制作③
第7回　木材加工：手道具にてカトラリー、器の制作④
第8回　木材加工：手道具にてカトラリー、器の制作⑤
第9回　木材加工：手道具にてカトラリー、器の制作⑥
第10回　仕上げ：塗装の概要・種類の説明を行う。(オイルやウレタンなど)
第11回　合評
第12回　大型機械の使用説明。サンプルを基に作業指導。安全確認の指導。
第13回　ほぞ加工の練習①
第14回　ほぞ加工の練習②
第15回　手道具の手入れ、機械調整の指導。

■教科書: 指定なし

■参考書: 手作りする木のカトラリー　手作りする木の器　（誠文堂新光社）ほか

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 大石　俊久　（非常勤講師）
実務経験: 陶芸家　　北海道陶芸協会・ 会員　同協会主催の陶芸教室でも 講師を 務めている

科目名　:	陶芸基礎演習

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １ 年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０ 時間
単　　位: ２ 単位

■科目概要: 陶芸の基礎（玉造り・紐造り・板造り等） を学ぶ。粘土・釉薬・道具の取り扱い・片付け・掃除などを覚える。

■到達目標: 各制作方法を習得する。粘土・道具・釉薬の取り扱いを覚える。素材の特性から、管理する意識が必要であるため、乾燥、焼成まで、一連の作品制作の手順理解を深める。

■授業計画:

第1回　やきものが出来るまで:陶芸の製作工程について説明をする。土練り・玉造り:荒練・菊練(粘土を練る基本作業)を学び、玉造りでカップを作る。
第2回　仕上げ・高台を作る:前回制作したカップの高台を作る。(付け高台・削り高台を覚える。)取っ手をつける。
第3回　紐造り:ひも状にした粘土を積み上げていくことで作品を作る。(器全体とのバランスを考えて成形を目指す。)
第4回　組鉢:同じ寸法の器を制作する。(玉造り・小鉢等)
第5回　仕上げ:前回制作した作品に高台を作る。
第6回　釉がけ:釉薬の取り扱い方・施釉方法等を覚える。
第7回　板造り:板状に伸ばした粘土から形を作る。(筒型花入れ)
第8回　袋物:紐造りで球体を作る。(シュガーポット・花器等)
第9回　木材加工:前回の削り。
第10回　仕上げ:塗装の概要・種類の説明を行う。(オイルやウレタンなど)
第11回　練込角皿・象嵌:異なる粘土を混ぜ込み、器の表面に模様を出す。(赤・白)粘土を板状に伸ばし角皿のパーツを作る。
第12回　仕上げ:前回のパーツを組み立てて角皿を作る。
第13回　釉がけ:重ねがけ・撥水剤等を使った掛け分け。
第14回　象嵌:半乾燥状態の作品に模様を彫り、別の粘土を埋め込む・削ることで装飾を施す。
第15回　仕上げ:前回の仕上げ　模様を出す。 線象嵌→素焼き後化粧土を施し焼成。

■教科書: 指定なし
■参考書: 指定なし
■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目:
■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 高橋　幸一　（非常勤講師）
実務経験: 宝飾職人　ジュエリー会社販売製造勤務を経て　Burning John（ シルバーアクセサリー工房）　代表　特注装飾品の制作を行っている。

科目名　：　鋳造基礎演習

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 貴金属のひとつである、銀を素材に、アクセサリーの制作を行う。基本的な工具・道具類の安全且つ適切な使用方法を演習課題によって身につける。

■到達目標: ロストワックス技法を中心にシンプルなアクセサリー制作を演習課題とし、道具・工具が使用でき、基本的な制作知識の習得を目的とする。

■授業計画:

第1回　ガイダンス:鋳造の基本的な説明と道具類の扱い方を説明。ワックスを使って練習。

第2回　平打リングの制作・原型作り:スパチュラを使い、ワンポイントの模様のあるリングを制作。

第3回　平打リングの制作・原型作り:鋳造での制作における注意点（ガス抜き、湯道など）を指導。

第4回　平打リングの制作・原型作り:ボリューム（地金使用料や重さのバランスなどの細かいチェック）サイズ、ワックス原型の仕上げチェック

第5回　平打リングの制作・埋没:石膏の型に関する注意点の確認。真空機の使用説明。

第6回　平打リングの制作・鋳造（キャスト）:脱蝋の仕方の説明。6～8時間焼成の為、電気窯の管理について指導。続けて精密鋳造機の操作方法を説明後、実際に鋳造を行う。

第7回　平打リングの制作・仕上げ:巣埋めやヘラがけ、きさげの使い方を指導。 リューターによる鋳肌の仕上げとバフ掛けによる最終研磨の説明。

第8回　平打リングの制作・仕上げ:ロー付けの指導。 バーナーの仕組みを解説。取り扱いの安全指導。

第9回　平打リングの制作・合評:作品の制作工程を振り返りながら、作業との因果関係を確認。

第10回　オーダー品の制作・ヒアリング:ペアになってお互いに装飾品をオーダー。実際の宝飾業のようにクライアントを意識させる課題。

第11回　オーダー品の制作・デザイン:ヒアリングから製図、完成予想図を作成。

第12回　オーダー品の制作・原型作り:ワックスによる成形①

第13回　オーダー品の制作・原型作り:ワックスによる成形②

第14回　オーダー品の制作・原型作り:石留めの技法を説明。宝石（貴石、半貴石）の種類や色、カットパターンなど説明。また専用の工具の使い方を指導。

第15回　オーダー品の制作・合評:ワックスまでの振り返りを行い、それぞれの原型仕上がりをチェック。

■教科書: 指定なし

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 菱野　史彦　（非常勤講師）
実務経験: 造形作家　金属加工職勤務を経て、工房ハンマーヘッド 代表　住宅金属製品(門、螺旋階段など)、調理品の特注制作のほか、造形作品の展覧会多数開催

科目名 : 金属加工基礎演習

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 製造分野の中でも、素材の特性や加工方法、塗装方法（着彩）など多岐にわたる金属の基礎知識、加工技術を身につける。

■到達目標: 素材加工において、安全で的確な作業方法を身につける。金属だからこそ出来る形の成り立ちを理解し、演習課題を通して基本的な切断、組み立て、接着、仕上げができるようになる。

■授業計画:

第1回　ガイダンス:金属の身近な表現や特性などを説明することで素材に対する知識を深める。機械の加工目的ごとの操作方法を習得し、加工時の危険性や注意点を理解する。コンタマシーンで練習用材料の切り出しなどを行う。機械のメンテナンスを(鋸刃の溶接)習得。
第2回　機械作業演習:練習で切り出した部材をボール盤を使い指定サイズの穴を開ける。開けた穴に指定サイズのねじを切る加工のほかハンドリベッターを使い二つの部材をかしめる事でパーツの組み立て方法を理解する。
第3回　機械作業演習:前回と同様に機械作業
第4回　フィギア制作・デザイン:実際の加工作業から得た技術を踏まえエスキースで形を検討しデザインを考える。
第5回　フィギア制作・デザイン:デザインから適切な加工方法を検討、制作物の設計図を作成
第6回　フィギア制作・制作:部材、材料を選定しパーツを大まかな形に切り出す。作業工程を踏まえ加工の危険性に注意をしつつ効率よく機械加工をする。
第7回　フィギア制作・制作:前回に続き部材、材料を選定しパーツを大まかな形に切り出す。作業工程を踏まえ加工の危険性に注意をしつつ効率よく機械加工をする。
第8回　フィギア制作・制作:切り出したパーツを手工具による加工でデザイン通りの形状になるように作業を進める。加工内容によっては工作機械を都度使用する。
第9回　フィギア制作・制作:前回と同様、切り出したパーツを手工具による加工でデザイン通りの形状になるように作業を進める。加工内容によっては工作機械を都度使用する。
第10回　フィギア制作・制作:前回と同様、制作を進める。
第11回　フィギア制作・制作:前回と同様、制作を進める。
第12回　フィギア制作・制作:パーツの仕上げ加工。一つ一つの形をよりデザインの形に近づけ丁寧な加工をする。
第13回　フィギア制作・制作:前回と同様パーツの仕上げ加工
第14回　フィギア制作・制作:仕上げ加工。表面処理やディスプレイを考える。作品の全体的な雰囲気を考え形に合わせた仕上げをする。
第15回　フィギア制作・合評:それぞれ自分の作品について制作手順、工夫した箇所、上手く出来た所、上手く行かなかった所、等を説明してもらい、製作上の注意点、工夫すべき点のほか今後の制作のためのポイントを伝える。

■教科書: 指定なし

■参考書: トコトンやさしい金属加工の本(日刊工業新聞社)

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 清水　宏晃　（非常勤講師）
実務経験: 木工家　木の家具代表　木材業で製造職を経て、特注家具、オリジナル木製品を制作販売。

科目名 : 木工演習Ⅰ

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １年次
開講学期: 後期
授業時数: ３０時間
単　　位: １単位

■科目概要: 木材の性質と、形態の関係性、制作工程の理解を深める。板材、角材から部材を成形、また木材加工の道具、工具の工程に沿った使用方を学ぶ。

■到達目標: 無垢材のスツール制作に取り組み、ほぞ組みの技法を中心に加工、組み立て、塗装を行い、基本的な家具の制作を習得する。

■授業計画:

第1回　課題説明・木取り:木製スツールを基本の形態として脚ものの構造やバリエーションを説明する。また木製家具のデザインについて、木の性質の観点で解説。大型機械の操作練習。
第2回　木取り:木材の特質（木目の方向性）の説明。バンドソー、糸鋸等の取り扱い説明、安全指導。木材に墨付けをおこない、切り出す材料決めていく。木目の方向や、完成した時の木目の出方の基礎を説明。
第3回　木取り:木材の特質（木目の方向性）の説明。バンドソー、糸鋸等の取り扱い説明、安全指導。バンドソーによる木取り。
第4回　脚部製作:バンドソー、横切り盤による木取り。安全指導。
第5回　脚部製作:手押しカンナによる基準面出し。（スコヤ使用）自動カンナによる平面出し。（ノギス使用）安全指導。
第6回　仕口加工:毛引きなどを使った墨つけ（加工部分の下書き）。角のみによるほぞ穴加工昇降盤によるホゾ加工①
第7回　仕口加工:毛引きなどを使った墨つけ（加工部分の下書き）。角のみによるほぞ穴加工。
第8回　仕口加工:仮組みを行いながらホゾ調整。（平ノミ使用）①
第9回　仕口加工:仮組みを行いながらホゾ調整。（平ノミ使用）②
第10回　仕口加工・組立・座面の加工:仮組みを行いながらホゾ調整。サンドペーパーによる仕上げ。
第11回　仕口加工・組立・座面の加工:仮組みを行いながらホゾ調整。サンドペーパーによる仕上げ。
第12回　座面の加工:木取り→平面だし→板はぎ。※随時木工機械使用の安全指導。
第13回　組み立て:カンナ、サンドペーパー等を用い材料の表面を整える。インパクトドライバー、木ネジを用いて、脚部、座面の組立。
第14回　仕上げ・水性ウレタン塗料、オイル塗料、ステイン等で塗装、仕上。
第15回　合評

■教科書: 指定なし

■参考書: 木工技術シリーズ（産調出版）

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 大石　俊久　（非常勤講師）
実務経験: 陶芸家　　北海道陶芸協会・ 会員　同協会主催の陶芸教室でも 講師を 務めている

科目名　:	陶芸演習 Ⅰ

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １ 年次
開講学期: 後期
授業時数: ３０ 時間
単　　位: １ 単位

■科目概要: 企業連携授業。窯焼きの歴史を学ぶとともに、現代でも続く登り窯の焼成方法を、作陶から窯詰め、焼成、窯出しと一連の工程を学ぶことで、窯と土、燃料につかう薪、温度（熱量をさす）の総合的な陶芸の実際を学ぶ。なお、登り窯での焼成は屋外での活動になる。

■到達目標: 登り窯の歴史の理解。登り窯の形式や特長を知り、効果的な温度管理のための燃料(薪)と焼成時間の関係性を理解する。また電気窯やガス窯とは違い、薪の利用で、作陶したものがどのような仕上がりになるかを体験的に学び、桃山時代から続く伝統技法の流れが現代の陶芸にどのような影響をもたらしているかを知る。

■授業計画:

第1回　作陶:基礎演習での成形方法やロクロ技法で造形作品や器など制作。粘土は登り窯焼成に適した耐火度の高いものを使用。
第2回　作陶:制作①
第3回　作陶:制作②
第4回　作陶:制作③
第5回　作陶:制作④
第6回　見学:札幌芸術の森　登り窯を実際に見学し、登り窯の歴史、成り立ちを学ぶ。
第7回　作陶:制作⑤
第8回　作陶:制作⑥
第9回　作陶:制作⑦
第10回　施釉:粉引きの要領
第11回　乾燥と窯、薪の準備:登り窯焼成の準備を行う。薪割り、窯詰めの際の備品を整える①
第12回　乾燥と窯、薪の準備:登り窯焼成の準備を行う。薪割り、窯詰めの際の備品を整える②
第13回　窯詰め:札幌芸術の森　登り窯を使用し作品の窯詰め作業。
第14回　焼成:焼成作業
第15回　合評:作品の焼成状態を見て、電気窯での焼成作品と比べ分析、振り返りを行う。

■教科書: 指定なし

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 武田　享恵　（非常勤講師）
実務経験: 金工家　金属品製造会社にて修行後　銅、アルミ 、錫製の特注茶道具、オリジナル工芸品を制作販売。展示会多数開催。

科目名 : 金工演習Ⅰ

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １年次
開講学期: 後期
授業時数: ３０時間
単　　位: １単位

■科目概要: 金属の加工法、鍛金の基本的な技術（定形しぼり）の習得をする。
素材加工の工程の中で素材と向き合い、特性を知り、その可能性を探る。

■到達目標: 銅と真鍮、2つの金属を使用したフライパンの制作。テーマに沿った形を考え、鍛金の技法による成形。パンの部分と持ち手の接合を行い、仕上げとして錫挽きを施す。

■授業計画:

第1回　課題説明:定形しぼり、変形しぼりで制作された作品の紹介、個々の作品の参考にする。
第2回　デザイン:模型制作
第3回　デザイン:設計図作成。鍋型(パン)の内径ゲージを作る。
第4回　鍛金練習:使用する道具の説明。基本姿勢、金づちの正しい持ち方など、デモンストレーション
第5回　鍛金練習:焼き鈍しとしぼりを繰り返し、成形①
第6回　鍛金:成形②
第7回　鍛金:成形③
第8回　鍛金:成形④
第9回　鍛金:成形⑤
第10回　鍛金:成形⑥
第11回　鍛金:柄の成形①
第12回　鍛金:柄の成形②
第13回　鍛金:柄の成形③
第14回　リベットで柄を本体(鍋部)に接合。内側に錫挽き。
第15回　全体を研磨し、仕上げ。 合評

■教科書: 指定なし
■参考書: 金工の伝統技法(理工学社) 鍛金の実際(美術出版社) ほか
■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目:
■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 高橋　幸一　（非常勤講師）
実務経験: 宝飾職人　ジュエリー会社販売製造勤務を経て　Burning John（ シルバーアクセサリー工房）　代表　特注装飾品の制作を行っている。

科目名　: **鋳造演習Ⅰ**

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １年次
開講学期: 後期
授業時数: ３０時間
単　　位: １単位

■科目概要: 企業連携授業。基礎演習に引き続き、ロストワックス技法での演習課題を行う。基本形から装身具としての機能を持ったオリジナルデザインを制作。

■到達目標:
・ワックスモデリングの基本を踏まえたアクセサリー制作。
・美しい仕上げを前提としたデザインの展開、アレンジ能力の向上を目指す
・デザインの発展を目的とした個別技能の取得。（石留め、仕上げの多様な技法等）

■授業計画:

第1回　石を使ったアクセサリーの原型制作:課題説明。デザインのラフ案に取り組む。

第2回　原型制作:石留めの説明、貴石と半貴石において石留めの技法を解説。

第3回　原型制作:ラフ案提出後、具体的な完成予想図を作成。立体にするときの注意点、工程を指導。

第4回　原型制作:引き続き具体的な完成予想図を作成。立体にするときの注意点、工程を指導。

第5回　原型制作:ワックスで原型作り①

第6回　原型制作:ワックスで原型作り②

第7回　原型制作:ワックスで原型作り③

第8回　原型制作:ワックスで原型作り④　ツリー立ての作業後、石膏に埋没①

第9回　原型制作:引き続きツリー立ての作業後、石膏に埋没②

第10回　キャスト:鋳造作業

第11回　仕上げ・研磨:石留めの練習(ミルタガネの使用　、タガネの制作　概論)
研磨による石のダメージについての説明(洗浄方法など)

第12回　仕上げ・石留め:研磨。銀の表面の加工を解説。鏡面磨き、白上げ、マット仕上げの説明。

第13回　仕上げ・石留め:研磨後、石留め。

第14回　仕上げ:ネックレスの場合、チェーン制作

第15回　合評:デザイン、仕上げ等の寸評、考察。

■教科書: 指定なし

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 大石　俊久　（非常勤講師）
実務経験: 陶芸家　　北海道陶芸協会・ 会員　同協会主催の陶芸教室でも 講師を 務めている

科目名　: 陶芸演習 Ⅱ

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １ 年次
開講学期: 後期
授業時数: ３０ 時間
単　　位: １ 単位

■科目概要: ロクロ成形の習得。小品から大型作品の成形。釉薬の種類、施釉方法、装飾技術のマスター。陶芸における焼成の意味を理解する。

■到達目標: 電動ロクロ技法の修得・成形、施釉、装飾の基礎技術を身につける。それぞれの土の特性、焼成時の変化を意識して考察する。釉薬の種類や焼成や湿度プログラムによる変化、素材の特性を知る。

■授業計画:

第1回　土練り、土殺し:菊練り-粘土の中の気泡を取り除く。土殺し-土をロクロの回転に慣らし、中心軸を出す。
第2回　成形（茶碗）:「器」成形の基礎となる茶碗の作り方、コテの使い方、切り糸での底の切り方、器の養生。
第3回　成形（湯呑）:立ち上げ方、口元の処理
第4回　成形（花瓶）:起伏の付け方
第5回　削り:削り作業におけるロクロ上での中心の出し方、高台の削り方、高台の種類を覚える。
第6回　施釉:施釉のかけ方,撥水剤の扱い、コンプレッサーの使用。応用としてマスキングの考え方や、スポンジングによるムラ掛けなどを学ぶ。
第7回　板造り:板状に伸ばした粘土から形を作る。（筒型花入れ）
第8回　成形（中鉢）:中鉢の作り方、コテの使い方を覚える。1kgから1個を挽くこと、カメ板を使用しての大型成型から平底の作り方、仕上げ方法を学ぶ。
第9回　削り:削り作業における中心の出し方、高台の削り方、鉢物のバランスのとり方、仕上げ方を覚える。
第10回　成形（袋物）:柄ゴテの使い方、首のすぼめ方、閉じ方、袋物のバランス、厚みの見方、仕上げ方を学ぶ。
第11回　練込角皿・象嵌:異なる粘土を混ぜ込み、器の表面に模様を出す。（赤・白）粘土を板状に伸ばし角皿のパーツを作る。
第12回　削り:シッタの使い方、シッタの中心の取り方、袋物の仕上げや削りを学ぶ。
第13回　成形（練り込）:色素練りこみ方法:土に色顔料を混ぜ、2色以上の色土を使用し、マーブル模様を出す。混色方法や一個挽きの方法を学ぶ。
第14回　削り:半乾燥状態の作品に削り作業。
第15回　陶芸 Ⅰ の作品との全体講評会:登り窯と電気窯で焼成した作品を比べ、振り返りを行い、土、施釉、焼成による分析を行う。

■教科書: 指定なし

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 菱野　史彦　（非常勤講師）
実務経験: 造形作家　金属加工職勤務を経て、工房ハンマーヘッド　代表　住宅金属製品(門、螺旋階段など)、調理品の特注制作のほか、造形作品の展覧会多数開催

科目名　:　金工演習Ⅱ

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １年次
開講学期: 後期
授業時数: ３０時間
単　　位: １単位

■科目概要: 金属加工技術である切削、研磨、接合、仕上げの技術を高める。オリジナルデザインを基に作図し完成までの作業工程を計画、実行。素材の特性を生かした加工方法を探る。
■到達目標: 金属の加工技術を応用し2種類以上の金属素材を用いて表札、サインを制作する。

■授業計画:

第1回　課題説明:金属の種類などを説明しながら表現にあった形と素材を効果的に使う必要性などを実例を使って説明し理解させる。
第2回　デザイン:実例を踏まえ設定を自宅や、架空の店舗、知人に送るための品物などにして目的に適したデザインを考える。
第3回　デザイン:デザイン上の加工方法を検討、指導しながら設計図を完成。
第4回　制作・部材加工　形にする上で設計上の問題をどう解決していくか、素材と組み立て方を考えながら進める①
第5回　制作・部材加工②
第6回　制作・部材加工③
第7回　制作・部材加工④
第8回　制作・部材加工⑤
第9回　制作:組み立て　リベット接合、ロー付け、ねじ留め①
第10回　制作:組み立て　リベット接合、ロー付け、ねじ留め②
第11回　制作:組み立て　リベット接合、ロー付け、ねじ留め③
第12回　制作:仕上げ　加工や表面仕上げにより作品の見え方が変わることを実際の加工を通して理解する①
第13回　制作:仕上げ　加工や表面仕上げにより作品の見え方が変わることを実際の加工を通して理解する②
第14回　制作:仕上げ　加工や表面仕上げにより作品の見え方が変わることを実際の加工を通して理解する③
第15回　合評:それぞれ自分の作品について制作手順、工夫した箇所、上手く出来た所、上手く行かなかった所、等を説明してもらい、製作上の注意点、工夫すべき点のほか今後の制作のためのポイントを伝える。

■教科書: 指定なし
■参考書: トコトンやさしい金属加工の本(日刊工業新聞社)
■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目:
■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 木村　一夢　（非常勤講師）
実務経験: 造形作家　画材、文具卸会社での販売、什器制作の実務経験を積む。特注家具、オリジナル装飾品制作販売。

科目名　: 工芸研究(木工演習Ⅱ)

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: １年次
開講学期: 後期
授業時数: ３０時間
単　　位: １単位

■科目概要: 製材、加工の技術力の向上。課題制作を通して接ぎ手の理解を深め、手工具、電動工具の使用方法を学ぶ。木材の性質を考え成形から金具などの取り付けまで一連の木製品づくりを学ぶ。

■到達目標: 無垢材で鍋敷き（小作品）を手加工の1つ、蟻組接ぎの技法での制作と、無垢材を利用した機械加工による小箱の制作を行う。

■授業計画:

第1回　手加工:鋸、鑿を使用し蟻組接ぎで鍋敷きを制作。木取り。
第2回　手加工:鋸、鑿を使用し蟻組接ぎで鍋敷きを制作。成形①
第3回　手加工:鋸、鑿を使用し蟻組接ぎで鍋敷きを制作。成形②
第4回　手加工:鋸、鑿を使用し蟻組接ぎで鍋敷きを制作。仕上げ。
第5回　小箱づくり:幅300mm×奥行180mm×高さ90mmの木製箱制作　なお既定のデザインを制作するが、若干の大きさの変更は認める。指定材料、指定量の中で制作する事。木取り作業。
第6回　木取:木取図に基づいて木取を行う。横切り盤の安全な使用法の実演、説明。
第7回　小箱づくり:材料カット　機械加工　治具の作り方を学ぶ①
第8回　小箱づくり:材料カット　機械加工②
第9回　小箱づくり:組み立て　箱組留接手加工①
第10回　小箱づくり:組み立て　箱組留接手加工②
第11回　小箱づくり:仮組み
第12回　小箱づくり:仕上げ　サンダー作業
第13回　小箱づくり:塗装
第14回　小箱づくり:金具取付、塗装
第15回　合評

■教科書: 指定なし
■参考書: 木工技術シリーズ(産調出版)
■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目:
■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 阿部　秀行　（非常勤講師）
実務経験: 宝飾職人　ジュエリー会社製造勤務を経て　秀工房（ 貴金属・ 宝飾製造業） 代表　特注装飾品の制作を行っている。

科目名 : 工芸研究（貴金属加工演習）

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: １ 年次
開講学期: 後期
授業時数: ３０ 時間
単　　位: １ 単位

■科目概要: 企業連携授業。貴金属の種類とシルバー素材の地金の配合方法や計算について学び、実際に彫金道具や機械工具を用いた地金形成方法の演習。

■到達目標: 銀素材の特徴や性質を知り、彫金道具の使い方を理解する。基本的なリングの形成方法、ロー付けなどの特殊技術を習得する。

■授業計画:

第1回　工具類の説明:ヤスリの種類、糸ノコのノコ刃の種類、ヤットコの種類、ロー材の種類、バーナーのガス圧力の調整器の使用方法、その他機械工具の説明と使用方法の説明。

第2回　地金の配合方法:貴金属の地金の種類を元素記号から覚え、地金配合について理論的に説明する。バーナーを使用した地金溶解方法の順序を覚える。地金の国内また、国外の刻印表示の見分け方を覚える。

第3回　地金の作成:溶解した地金を金床と金槌で締めてローラーを使用し、棒状ならびに板状に形成する。

第4回　地金の作成:さらに細く棒状ならびに板状に形成する。

第5回　ロー付け:地金のロー付け方法やロー材の選び方は、棒・板・線など大きさや形状などによって異なるため、それぞれ適したロー付け方法があることを理解する。

第6回　ロー付け:接合練習

第7回　平打リング加工:板状の地金を使用して平打リング加工をする。平打加工はサイズ、幅、厚さ、重さなどを決め、比重を使って計算し、正確な制作工程を学ぶ。

第8回　平打リング加工:加工作業

第9回　ヤスリの使い方:作成した平打リングを、だ円ヤスリ、平ヤスリ、両甲ヤスリを使って内側、両サイド、上部の順序で形成していく。平ヤスリは荒目、中目、細目の3種類を使用して仕上げていく。また、キサゲ、ヘラも使用しさらにリングの表面を仕上げる。

第10回　平打リングの仕上げ:リングの形が整ったら、リューターを使用してセラミックポイントである程度仕上げ、バフ（板バフ・布バフ）を使用して仕上げていく。平打リング完成。

第11回　仕上げ・研磨:石留めの練習（ミルタガネの使用　、タガネの制作　概論）
研磨による石のダメージについての説明（洗浄方法など）

第12回　甲丸リング加工:甲丸加工は、サイズ、幅、厚さを決めて、ローラーと溝台を使用して作成する。形成に使用するヤスリは平打リングと同様だが、削り方が違うので、ヤスリ

第13回　甲丸リングの仕上げ:仕上げはキサゲ、ヘラを使い、その後、リューター、布バフを使用して仕上げる。甲丸リング完成。

第14回　縄目加工:作った丸線で縄目作りを行う。縄目づくりは、バーナーを使って丸線を加熱しながらひねりを入れていき作成する。縄目が出来たら丸めてロー付けしてリングを作

第15回　合評:3つのリングの作品講評

■教科書: 指定なし

■参考書: 宝飾クラフトの実際（美術出版社） ほか

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 吉田　修　（非常勤講師）
実務経験: 大手ゼネコン設計部にて商業施設系の設計に携わった後、ヘルシンキ工科大学建築学科への留学で北欧デザインを学ぶ。一級建築士事務所主宰。

科目名 : プランニング

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: ・著名なプロダクトデザイナーについて調べ、その分析を通じて業界の仕事に触れ、事例を通じてデザイン意図、コンセプトを考え、クライアントの 要望や与条件からなぜそのようなデザインに至り、どのようにそれを実現したかグループで考える。・半透明な樹脂シートを用いて、照明のシェードの製作を目指す。照明という機能を満たしつつ、頭でイメージしたものを形にするというデザイン の基礎を学ぶ。

■到達目標: ・事例研究のグループ作業を通じて、協働で作業することの大切さ、人前で自分の意見を言い、他人の意見を尊重するという社会人と
してのマナーを身につける。・照明器具の製作を通じて、イメージを形にする難しさと形にできたときの達成感を学び、デザインすることの楽しさ、言葉を使わず
に意図することを伝えるというデザインの役割を体験する。

■授業計画:

第1回	事例分析1:デザインすることとはデザインの意味、役割について考える。著名なプロダクトデザイナーの紹介、課題説明。業界のトップランナーの仕事に触れる。
第2回	事例分析2:デザイナー分析。デザイナーのキャリア、デザインに対する考え方についてグループ学習。資料収集。
第3回	事例分析3:中間発表　グループごとにデザイナーのデザインに対する姿勢、考え方について、資料を通じて各自の考え、感想を発表し、1コマ目の自分の考え方との差異を議論する。
第4回	事例分析4:デザイナーの作品事例を通じて、デザイナーの思いや考えがどのように形に表現されているか分析する。合わせてクライアントや与条件についてまとめる。
第5回	事例分析5:最終発表　事例分析で得た結果をA4用紙にプレゼンテーションし発表する。ひとを惹きつけるプレゼンテーション、発表の仕方を工夫する。
第6回	照明器具の製作1:照明の果たす役割、種類について。 世の中にある照明器具、動向を知る。課題説明
第7回	照明器具の製作2:中間発表　ファーストアイディアをプレゼンテーション　1週間という限られた時間で思いつくことを画や形で表現する。
第8回	照明器具の製作3:ペーパーモデル(S=1/3)の製作。イメージを具現化するためにケント紙を用いて検討を重ねる。また検討過程において紙の特性を学びさらにアイディアを進化させていく。
第9回	照明器具の製作4:ペーパーモデル(S=1/3)の製作　形はひとつではなく、思いつく限り試作を重ねる。手を動かすうちに見えてくるものを形にしていく。
第10回	照明器具の製作5:中間発表　試作の過程を言葉で整理して発表する。最終的に進むべき最良案について説明、方向性を決定する。
第11回	照明器具の製作6:ペーパーモデル(原寸)の製作　中間発表で得られた指摘や問題点についてさらに改良を重ねる。最終作品に向けて原寸大で検証、プロポーションやディテールを詰める。
第12回	照明器具の製作7:電球器具とその取り付け　電球の役割と動向について学び、大きさ、熱、明るさについて理解を深める。
第13回	照明器具の製作8:中間発表　夏休み明けに作業の進捗状況を報告。最終作品に向けて修正点などを議論。
第14回	照明器具の製作9:最終モデルの製作　実際の素材を用い、材質の違いによる問題点を洗い出す。ステー類など補助部材の製作。
第15回	照明器具の製作10:最終発表　消灯時、点灯時の照明としての役割、造形、デザイン意図を発表。 作業工程で感じたことなどを議論し、総合的に評価する。

■教科書: 指定なし

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 桂　充子　（専任教員）
実務経験:

科目名 : プレゼンテーション Ⅰ

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １ 年次
開講学期: 前期
授業時数: ３０ 時間
単　　位: １ 単位

■科目概要: 相手がいる、ということを前提としたコミュニケーション能力を養う。伝達には、立案の動機、素材の背景、制作工程をまず把握しなければ成り立たないので、作品や制作に対して分析でき、客観的に知る力を高める。

■到達目標: 演習課題を通して、情報の優先順位を付け、提案をまとまりごとに分け、ストーリーとして組み立て発表できる課題に取り組む。

■授業計画:

第1回　図とデザイン:やり方、作り方の表現方法を演習。ラフスケッチ
第2回　図とデザイン:やり方、作り方の表現方法を演習。清書
第3回　図とデザイン:やり方、作り方の表現方法を演習。発表
第4回　図とデザイン:しくみの表現方法を演習。ラフスケッチ
第5回　図とデザイン:しくみの表現方法を演習。清書
第6回　図とデザイン:しくみの表現方法を演習。発表
第7回　図とデザイン:ピクトグラム　マーク作成。
第8回　課題説明　プレゼテーションの解説
第9回　リサーチの仕方:演習シートを基に情報収集を行う
第10回　リサーチの仕方:演習シートを基に情報収集を行う
第11回　提案:発見、気づきをまとめ、解決への方向性や具体的な手法を考える。
第12回　提案:優先順位をまとめる
第13回　ストーリー作り:発表への内容の順序を整理し、魅力的な文章表現、画像加工を考える
第14回　ストーリー作り:発表への内容の順序を整理し、伝え方、間合いを考える
第15回　課題発表

■教科書:

■参考書:

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 高橋　美絵/桂　充子　（専任教員）
実務経験:

科目名　: **プレゼンテーションⅡ**

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: ２年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: プレゼンテーションⅠで学んだコミュニケーション能力をさらに発展させる。

■到達目標: これまで取り組んできた技術演習、専門性のある表現技法、それら取り組んだ経験知が総合的に生かされるよう、人の理解のメカニズムを知り、共有できるデザイン提案を行う。

■授業計画:

第1回　プレゼンテーションとは、の振り返りと授業概要説明
第2回　パッケージデザイン:ラフ案
第3回　パッケージデザイン:中間発表
第4回　パッケージデザイン:デザイン画制作
第5回　パッケージデザイン:デザイン画制作
第6回　パッケージデザイン:マケット制作
第7回　パッケージデザイン:マケット制作
第8回　パッケージデザイン:マケット制作
第9回　パッケージデザイン:発表
第10回　家具・プロダクトデザイン、ジュエリーデザインのテーマに沿ったデザイン提案:ラフ案
第11回　家具・プロダクトデザイン、ジュエリーデザインのテーマに沿ったデザイン提案:中間発表
第12回　家具・プロダクトデザイン、ジュエリーデザインのテーマに沿ったデザイン提案:デザイン画
第13回　家具・プロダクトデザイン、ジュエリーデザインのテーマに沿ったデザイン提案:マケット制作
第14回　家具・プロダクトデザイン、ジュエリーデザインのテーマに沿ったデザイン提案:マケット制作
第15回　家具・プロダクトデザイン、ジュエリーデザインのテーマに沿ったデザイン提案:発表

■教科書:

■参考書:

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 桂　充子　（専任教員）
実務経験:

科目名　: **プロジェクト計画**

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: ２ 年次
開講学期: 後期
授業時数: ６０ 時間
単　　位: ２ 単位

■科目概要: 新しいことに挑戦し価値を生み出す制作において、目的・目標計画と、実行計画を立て、作品の完成はもとより、その過程においても仕事の質をあげる、考え方、進め方の意識を高める。

■到達目標: 課題制作を行うことによって、理由や背景をもとにそれがなにか、の目的・目標計画というコンセプトメイキングし、またどのようにいつまでに実現するかの実行計画という二通りのものを作成。アイデアや考え、思いを形にする具体的な進め方を理解する。

■授業計画:

第1回　目的・目標設定:企画立案　ラフ画を描き、コンセプトを考える。

第2回　実行計画:素材や、用途、加工方法を考える。

第3回　実行計画:材料の使い方を検討。規格からどのように部品加工していくのか、また総量はどのくらいかを吟味し、それに伴う加工方法を決定して行く。

第4回　目的・目標設定:模型制作

第5回　実行計画:模型から材料の使い方を検討。

第6回　目的・目標、実行計画:フォルム、構造、素材の使い方、加工方法、用途を総合的に検討

第7回　プレゼン資料作り、中間発表　スケジュール調整

第8回　目的・目標、実行計画:フォルム、構造、素材の使い方、加工方法、用途を総合的に検討

第9回　実制作。実材を使用して制作

第10回　実制作。実材を使用して制作

第11回　実制作。実材を使用して制作

第12回　実制作。実材を使用して制作

第13回　実制作。実材を使用して制作

第14回　実制作。プレゼン資料作り

第15回　発表と振り返り

■教科書:

■参考書:

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 飯塚哉子 （専任教員）
実務経験:

科目名 : **色彩演習**

履修形態: 必修
授業形態: 講義＋演習
履修学年: １年次
開講学期: 後期
授業時数: ３０時間
単　　位: １単位

■科目概要: 色の三属性や配色計画、対比、調和、補色といった色の基本的性質を学ぶ

■到達目標: 色のコーディネートを習得し、目的に基づく配色計画をデザインに応用出来る能力を養う。色彩士検定３級取得を目指す

■授業計画:

第1回 色のなりたち:光の定義、スペクトル、分光反射率特性、色温度、目の構造と視細胞

第2回 混色:加法混色の三原色(R, G, B)、減法混色の三原色(C, M, Y)

第3回 色の表示方法①:色名の分類、PCCS(Hue-Tone)、色立体、表記法

第4回 色の表示方法②:マンセル表色系、色立体の概念、表記法、塗料用標準色見本帳

第5回 色の知覚的効果①:色の時間的相互作用、残像、補色、色の空間的相互作用

第6回 色の知覚的効果②:色の伝達効果、JIS安全色、色の知覚的効果

第7回 色の心理的効果①:色の感情効果、SD法、固有感情と三属性の関係、心象

第8回 色の心理的効果②:色の象徴性(色相による象徴語)、色の慣習、色の象徴

第9回 色彩調和①:色彩調和の原理、配色分類と配色演習(同一、類似、対照)

第10回 色彩調和②:ドミナント配色、グラデーション、ナチュラルハーモニー

第11回 色彩調和③:トーンオントーン配色、カマイユ配色、秩序の原理による配色

第12回 検定直前対策Ⅰ:理論問題徹底解説、演習

第13回 検定直前対策Ⅱ:演習問題徹底解説、演習

第14回 検定直前対策Ⅲ:実技問題徹底解説、演習

第15回 検定直前対策Ⅳ:個人別苦手問題解説、演習

■教科書: カラーマスター ベーシック (NPO法人アデック出版局)

■参考書: カラーマスター スタンダード (NPO法人アデック出版局)、回転混色器、色立体

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 高野　克也　（非常勤講師）
実務経験: 自然活動のNPO法人勤務を経て、札幌まるやま自然学校を主宰。自然活動のほか、木育、地域活動など未就学児童から企業研修など企画し、幅広く能力開発、人材育成を行っている。

科目名 : 環境デザイン

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １年次
開講学期: 後期
授業時数: ３０時間
単　　位: １単位

■科目概要: 環境デザインの領域は幅広く、アート、デザイン、エコロジー、テクノロジー等を包含している。立体制作には、デザインカや造形力のみならず、ものの見方、素材背景の知識が必要とされる。活動を通して与えられた問題、あるいは自ら見つけた問題を解決して行くことで、「作る」という推進力を養うことが目的ではあるが、最も大事なことは、制作品の役目や価値を見出すことが、自身の役割や責任の投影であるという理解である。企業連携授業

■到達目標: 小学生向けの工作アクティビティを研究（関わり合いの意識）、考案（状況把握の意識）、実施（協働の意識）、振り返りを行い、活動態度、プログラムの構成を講師から評価を受ける。

■授業計画:

第1回	ステップ1関わり合いの意識:公園や公共管理内の山林において自然活動を行う。植物(あるいは動物)の観察、季節の風物をアートやデザインの観点から探る体験的アクティビティを通して、感性を育む。
第2回	ステップ2関わり合いの意識:公園や公共管理内の山林において自然活動を行う。植物(あるいは動物)の観察、季節の風物をアートやデザインの観点から探る体験的アクティビティを通して、感性を育む。
第3回	ステップ3関わり合いの意識:公園や公共管理内の山林において自然活動を行う。植物(あるいは動物)の観察、季節の風物をアートやデザインの観点から探る体験的アクティビティを通して、感性を育む。
第4回	ステップ4関わり合いの意識:公園や公共管理内の山林において自然活動を行う。植物(あるいは動物)の観察、季節の風物をアートやデザインの観点から探る体験的アクティビティを通して、感性を育む。
第5回	ステップ5状況把握の意識:自然素材を使った簡単工作の考案。試作を行い、設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。
第6回	ステップ6状況把握の意識:自然素材を使った簡単工作の考案。試作を行い、設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。
第7回	ステップ7状況把握の意識:自然素材を使った簡単工作の考案。試作を行い、設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。中間発表
第8回	ステップ8状況把握の意識:中間発表後、ブラッシュアップを図る。設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。
第9回	ステップ9状況把握の意識:ブラッシュアップを図る。設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。
第10回	ステップ10状況把握の意識:ブラッシュアップを図る。設定した時間で自然活動＋工作ワークショップの実施計画を練る。
第11回	ステップ11協働の意識:グループ発表。実施に向けて模擬活動。
第12回	ステップ12協働の意識:振り返りを行い。準備品などの用意。
第13回	ステップ13協働の意識:振り返りを行い。準備品などの用意。
第14回	ステップ14協働の意識:実施
第15回	ステップ15協働の意識:振り返り。

■教科書: 指定なし

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 鴻上宏子　（非常勤講師）
実務経験: 北海道教育大学美術科　卒業　彫刻家

科目名　: 空間表現

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: ２ 年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０ 時間
単　　位: ２ 単位

■科目概要: 作品制作において、要素、素材、技法による造形的可能性を広げる目標を持つ。演習課題での造形物制作では、イメージを伝達できる力をさらに高める。

■到達目標: 美術工芸品の価値やあり方を指す「用の美」という言葉があるが、では用を持たない美とは何か、作りだすことができるのか、という課題演習授業。素材を加工するには技術によることが大きいが、技術と、考え（思いやメッセージ、概念）や美しさをバランスよく持った形態や出力方法を各自探求し、発表する。

■授業計画:

第1回　量による表現:石膏彫刻を行う。内部に空間を保つ量全体の造形を制作することにより、外部空間との関係を考える。石膏彫刻制作。
第2回　量による表現:石膏彫刻を行う。作品エスキース
第3回　量による表現:石膏彫刻を行う。作品エスキース
第4回　量による表現:石膏彫刻を行う。石膏を型に流し込み、彫刻する原型をつくる。
第5回　量による表現:石膏彫刻を行う。石膏造形
第6回　量による表現:石膏彫刻を行う。石膏造形
第7回　量による表現:石膏彫刻を行う。石膏造形
第8回　量による表現:石膏彫刻を行う。石膏造形
第9回　合評会:量の魅力、空間の魅力、面のつながりが意識されているか。カービングのタッチ、個性的表現が感じられるか。
第10回　自然素材で表現する:素材を加工することにとらわれず、技術と概念、美しさをバランスよく持った形態や出力方法を各自探求し、発表する。
第11回　自然素材で表現する:アイデアスケッチ
第12回　自然素材で表現する:造形制作
第13回　自然素材で表現する:造形制作
第14回　自然素材で表現する:造形制作
第15回　合評会。即興的であれ、構築的であれ、自然素材のチョイスと形態表現、あるいは物質運動を伴う現象表現など、各自の表現への狙いと取り組みを発表する。

■教科書: 指定なし

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 須田　修司　（非常勤講師）
実務経験: 木工家　旭川の家具工房勤務を経て、工房旅する木　代表　内装施工、特注家具、木製品の製造販売を行う。

科目名　: 専門技術演習（木工演習Ⅲ）

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: ２年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 脚もの課題として椅子制作を行う。木取り、部材加工、組み立て指導。随時、木材加工に不可欠な「刃物（鑿、鉋、鋸）」の基本的な使用法、刃砥ぎ、を覚えることにより、素材への理解、大型機械、電動工具による木材加工への理解も深め、応用力を高める。

■到達目標: 大型機械の実践的な使用、冶具制作、旋盤加工を学ぶ。課題１：椅子課題　２：小物制作

■授業計画:

第1回　ガイダンス　仕事紹介:実践例として家具納品、内装施工仕事の紹介をスライドショーにて解説。
第2回　デザイン:図面解説
第3回　加工①:図面を基に木取り加工。手押し鉋盤、自動鉋盤を使用して材を整える。※安全対策指導
第4回　加工②:図面を基に木取り加工。手押し鉋盤、自動鉋盤を使用して材を整える。※安全対策指導
第5回　部材加工①:トリマー、ルーター加工　ボール盤、角のみ盤加工
第6回　部材加工②:トリマー、ルーター加工　ボール盤、角のみ盤加工　旋盤加工
第7回　部材加工③:トリマー、ルーター加工　ボール盤、角のみ盤加工　旋盤加工
第8回　部材加工④:トリマー、ルーター加工　ボール盤、角のみ盤加工　旋盤加工
第9回　仕上げ・組み立て①:手カンナ、サンドペーパー等で材料の仕上を行い、組立を行う。座張りを行う。
第10回　仕上げ・組み立て②:手カンナ、サンドペーパー等で材料の仕上を行い、組立を行う。座張りを行う。
第11回　仕上げ・組み立て③:手カンナ、サンドペーパー等で材料の仕上を行い、組立を行う。座張りを行う。
第12回　小物づくり①:デザイン考案
第13回　小物づくり②:加工・仕上げ
第14回　小物づくり③:仕上げ・塗装
第15回　合評

■教科書: 指定なし
■参考書: 木工技術シリーズ（産調出版）
■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目:
■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 下沢　敏也　（非常勤講師）
実務経験: 陶芸家　北海道陶芸協会・会員　円山陶房　主宰　北海道陶芸協会の教室で代表講師を務めている。札幌文化奨励賞受賞

科目名　：　専門技術演習（陶芸演習Ⅲ）

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: ２年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 陶芸制作における成形から焼成までの一連の工程の習得。演習Ⅲは企業連携の授業形態で、陶芸展作品作り、屋外型の窯作業を行いながら、様々な陶芸表現とその仕事の内容を学び、自らのスキルアップが狙いである。

■到達目標: 陶芸の応用演習として、様々な場面に沿った素材選び、成形、作品管理、焼成方法や、施釉塗装色など考察力を身に着ける。展覧会に出品を行う。

■授業計画:

第1回　スライドレクチャー:現代陶芸の在り方、伝統と前衛を解説。
第2回　デザイン　素材選び:大型作品、造形作品のデザインを考える。
第3回　模型づくり①:試作品、釉薬実験を進め、造形方法、乾燥時間や焼成手順を考える
第4回　模型づくり②:試作品、釉薬実験を進め、造形方法、乾燥時間や焼成手順を考える
第5回　模型づくり③:試作品、釉薬実験を進め、造形方法、乾燥時間や焼成手順を考える
第6回　制作①:粘土成形
第7回　制作②:粘土成形
第8回　制作③:粘土成形
第9回　制作④:粘土成形
第10回　焼成:焼成作業
第11回　展示準備:展示台、題材などの準備を行い、出品（北海道陶芸展）
第12回　登り窯活動①:デザイン考案
第13回　登り窯活動②:器など粘土成形（耐火度のある土を使用）
第14回　登り窯活動③:登り窯準備
第15回　登り窯活動④:焼成作業

■教科書: 指定なし
■参考書: 指定なし
■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目:
■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 阿部　秀行　（非常勤講師）
実務経験: 宝飾職人　ジュエリー会社製造勤務を経て　秀工房（ 貴金属・ 宝飾製造業） 代表　特注装飾品の制作を行っている。

科目名 : # 専門技術演習（鋳造演習Ⅲ）

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: ２年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 企業連携授業。シルバーの地金を使った様々なアクセサリーの加工方法や、石の大きさ・形・カットによる石留方法を知る。各制作課題による加工方法の違いから、適した作業順序や工程の必要性を理解し、技術向上を目指す。

■到達目標: 道具の使い方を理解し、より高い質の仕上がりを目指す。作りたいデザインの製作工程を自ら考え、重さや使いやすさ、耐久性や見せ方など実用性を考慮したアクセサリーが実際に制作できる技術を養う。

■授業計画:

第1回 石入り平打リング加工（ミル留め）：石留め用平打リングの作成。幅は4.5㎜、サイズ、厚さ、重さなどを決め、その寸法で正確に仕上げる。仕上がりを良くするため、なまし方（熱したあと3秒数えてから水に入れて冷ます）や各道具の手入れ（ヤスリの手入れ、ヘラ・キサゲの砥ぎ方）について学ぶ。

第2回 穴開け・石のセッティング：石留めの順序や意味を理解する。径2.5㎜のキュービックジルコニアを石留めするため、ドリル径1.2㎜、丸ギリ径1.8㎜、2.5㎜のポイントを使って穴を開ける。石をセッティングしながら、留められる深さになるまで穴を開ける。

第3回 ミル留め・仕上げ：ミルたがねを使って石を留める。傷ができればヘラで消し、仕上げる。ミル留め平打ちリング完成。

第4回 石入り縄目リング加工（サラ留め）：幅4.5㎜の平打リングを作成し、縄目模様にする。平打リングの表面に糸ノコを使って8等分の筋を入れる。糸ノコは押切りと引切りがあるが、引切りは主に透かし模様を切るときに使うため、押切りで筋を入れる。

第5回 縄目加工：筋に数種類の精密ヤスリを使用して削り、縄目模様を作っていく。ある程度削れたら、ブラシなどのポイントを使って縄目部分をさらに仕上げる。

第6回 穴開け・石のセッティング：ドリル、丸ギリで穴を開ける。サラ留めは石に負担がかかるので、径2㎜の硬いメレダイヤを使う。メレダイヤをセッティングしながら、留められる深さになるまで穴を開ける。

第7回 サラ留め・仕上げ：ヘラを使って石を留める。開けた穴の周りの地金を寄せるように留めていく。傷ができればヘラで消し、さらに仕上げる。サラ留め縄目リング完成。

第8回 ペンダントトップ石枠加工　石座（八巻）加工：10㎜×12㎜の小判型の石をペンダントトップに加工する。板状の地金を作り、石の大きさに合わせた石座を作る。石の外周に沿って板状の地金をヤットコを使って丸める。切り口をロー付けし、ヤットコで形を整える。石が座るようにヤスリで削り、仕上げる。

第9回 爪立て・バチカン加工：石座に石留めするための爪を立てる。爪は角線を引いて作り、石枠に対角線になるよう4本ロー付けする。その際、石座のロー材よりも低温のロー材を使用する。爪の長さを調整し削り、爪の形を整える。チェーンを通すしずく型のバチカンを作る。

第10回 外付け縄目装飾作り：針金版を使って丸線をひき、縄目の線を作る。その線で石座を自由に装飾し、ロー付けする。

第11回 石留め・仕上げ：石枠にバチカンを通した丸管をロー付けする。石の座り具合を見ながらヤットコを使って石留めをする。バフをかけて仕上げる。ペンダントトップ完成。

第12回 角石リング枠加工：4㎜×6㎜オクタゴンカットの石をリングに加工する。石枠用の板状の地金を作る。

第13回 石枠・爪立て加工：石の辺に合わせた長方形の石座を作り、石が座るようにヤスリですり合わせる。石座に角線を立てロー付けする。爪は4本爪にする。爪の長さを調整し削り、爪の形を整える。

第14回 腕部分地金作成：腕用の角棒の地金を作る。地金の側面を金槌でたたき、地金を締める。地金の端部分は腕にするため厚くする。地金を両端から徐々に丸めていき、リング状に丸める。真円にしたあと、変形させないようにヤスリがけし表面を整え仕上げる。

第15回 石枠と腕を合わせる　石留め・仕上げ：石枠と腕を組み立てる。4本爪の石枠を加工した腕にはさんでロー付けする。形を整えて仕上げる。石の座り具合を見ながらヤットコを使って石留めをする。バフをかけて仕上げる。角石リング完成。

■教科書: 指定なし

■参考書: 宝飾クラフトの実際（美術出版社） ほか

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 武田　享恵　（非常勤講師）
実務経験: 金工家　金属品製造会社にて修行後　銅、アルミ 、錫製の特注茶道具、オリジナル工芸品を制作販売。展示会多数開催。

科目名 : 専門技術演習（金工演習Ⅲ）

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: ２年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 金属の特性を理解し、しぼり、銀ロー付け、溶接等基本的技術を向上する。
デザインコンセプトの核を明確にし、生活工芸品制作とする。

■到達目標: 金属の加工法、鍛金の応用技術（変形しぼり）、金属の特性を活かした接合法の技術を習得をし、照明器具の制作を行う。シェードのほか、照明の仕組みも考え、持続的に使用可能な作品を完成させる。

■授業計画:

第1回　課題説明:金属製品の解説。あかり、照明の事例を解説。デザインラフ案を作成。
第2回　デザイン:模型制作を行い、照明の設計を行う。光の機能、人や空間との関わり方を考える。
第3回　デザイン:中間発表　形のデザイン、素材の選定。
第4回　デザイン:形態を決定。図面制作し、部材加工計画を立てる。
第5回　加工練習: TIG溶接機の練習。酸素とプロパンのバーナーワークを練習。
第6回　成形①:　アルミニウム、銅（真鍮）、鉄、それぞれの素材加工を把握。非鉄は焼きなまし、酸洗い、鍛金を繰り返す。鉄は赤めながら鍛金を行う。
第7回　成形②
第8回　成形③
第9回　成形④
第10回　成形⑤
第11回　成形⑥
第12回　仕上げ:鉄は油焼きを施し、黒い仕上げにする/錆を施し、茶色の仕上げにする。
銅（真鍮）は、酸洗いをし、硫化硫黄で着色。着色を施した後、蜜蝋を塗布。
第13回　仕上げ:アルミニウムは表面加工を施し、クリアラッカー仕上げ。＊素材によって異なる仕上がりになる。
第14回　組み立て:ケーブルなど照明器具と接合。
第15回　合評

■教科書: 指定なし

■参考書: 鍛金の実際（美術出版社）　あかりの魔法（エクスナレッジムック）ほか

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 清水　宏晃　（非常勤講師）
実務経験: 木工家　木の家具代表　木材業で製造職を経て、特注家具、オリジナル木製品を制作販売。

科目名 : 専門技術演習（木工演習Ⅳ）

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: ２年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 箱ものの構造と形（デザイン）の関係を理解し、素材への理解を深め、デザインの目的を意識する。箱ものは取り合い（合わせる箇所）が多いので「素材が木材であること」「計算して合わせるところ」「自由に加工可能なところ」等の判断力を高める。素材への理解、大型機械、電動工具、手工具による木材加工への理解、応用力を高める。

■到達目標: 家具や木製品の制作。複合的な技法を用いた課題制作を行う。課題：箱もの制作

■授業計画:

第1回　課題説明・手工具管理:刃物の砥ぎ方やカンナの作り方。

第2回　刃物砥や手工具の管理:木刃物の砥ぎ方やカンナの作り方。仕上げや面取りについても先に触れておく。

第3回　箱ものの構造と形（デザイン）:実例をあげて構造と形の関係を説明。使用目的、使用環境を考慮して、デザインを考える。ラフ案、模型制作。

第4回　製図:デザイン画、模型をもとに図面作成。第三者にもわかるように、丁寧な作図を心がける(1/2,1/5可)。作品の形大きさが決まったらパーツリストを作成する。

第5回　中間発表:模型、図面のチェック

第6回　木取加工:デザイン画、図面、パーツリストをもとに木取りを行う。・木取りを行う際にバンドソー、横切り盤を用いるので、その使用法と安全指導を行う。

第7回　基準面加工:手押し鉋盤、自動鉋盤を使用して材を整える。※安全対策指導

第8回　仕口加工、形状加工:組立に必要な仕口継手（ホゾ、ダボ穴加工）の加工を行う。形状の加工においてルーター、トリマーなどの電動機械の取り扱い方の説明、安全指導。

第9回　仕口加工:木材加工のイメージができない、または理解しにくい場合は必ず端材などで練習をする。

第10回　仕口加工:※丁番やキャッチ、スライドレールなどを使用する場合はその取り付け方の指導。

第11回　仕口加工:※鑿、カンナ等刃物の研ぎ方は一度では覚えられないので、随時行う

第12回　組み立て・仕上げ:手カンナ、サンドペーパー等で材料の仕上を行い、組立を行う。

第13回　組み立て・仕上げ:組立の際に、クランプ、はたがね等を使用するので、組立に必要な道具の使い方と安全指導。

第14回　仕上げ・水性ウレタン塗料、オイル塗料、ステイン等で塗装、仕上。

第15回　合評

■教科書: 指定なし

■参考書: 木工技術シリーズ（産調出版）

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 下沢　敏也　（非常勤講師）
実務経験: 陶芸家　北海道陶芸協会・ 会員　円山陶房　主宰　北海道陶芸協会の教室で代表講師を務めている。札幌文化奨励賞受賞

科目名 : 専門技術演習(陶芸演習Ⅳ)

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: ２ 年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０ 時間
単　　位: ２ 単位

■科目概要: プランから完成まで制作演習を通してデザインカ、加工技術を深める。複合的な技法を用いた課題制作を行う。

■到達目標: 電動ロクロ成形を中心に技法や道具の使い方を学ぶ。組物では同型の作品作りの取り組み、中鉢や注器ではパーツの大小にともなう制作技術の向上、粘土の性質を利用した様々な制作法に触れ、スキルアップを目的とする。

■授業計画:

第1回　ガイダンス:作陶を中心に行うが、焼成毎、施釉・装飾の指導を行う。
第2回　組物・5個組　茶碗、小鉢:形、大きさを揃えたセットものの成形。茶碗や小鉢を棒引きでの成形。トンボ、コテなどの使い方を覚える。
第3回　組物・6個組　茶碗、小鉢:削り作業。高台の大きさ、高さを揃える。トースカン、カンナの使い方を覚える。
第4回　組物・5個組　カップ・タンブラー:形、大きさを揃えたセットものの成形。茶碗や小鉢を棒引きでの成形。トンボ、コテなどの使い方を覚える。
第5回　組物・6個組　カップ・タンブラー:削り作業
第6回　中鉢:中鉢制作。2kg以上の粘土を使用。カメ板の使い方を覚える。カメ板での中心の取り方。
第7回　中鉢:中鉢制作。高台削り。シッタなどの使い方を覚える。
第8回　装飾:化粧土を使った描き落とし技法。飛びカンナ、三島手、イッチンの装飾方法。
第9回　注器:急須、ポットの制作。各2個以上。注器の各パーツ成型後、組み合わせ。全体のバランスのとり方を覚える。
第10回　注器:削り作業。本体、蓋の削り方。茶漉し、取っ手、口のバランスやカットの仕方。
第11回　仕上げ:取っ手、注ぎ口、茶漉しの接着方法。バランスのとり方。
第12回　筒もの:筒もの(花器)制作。1～2kgの土を筒状にろくろ挽きする。中心のブレがでないように挽く。前半課題の焼成後合評会
第13回　土の再生:土練機の使い方を覚える。粘土の再生方法。
第14回　展開図制作:たたら技法で展開図を使った立体制作。自由な発想での制作。
第15回　展開図制作:よりしろをつかった接着方法。組み立て。仕上げ。

■教科書: 指定なし

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 高橋　幸一　（非常勤講師）
実務経験: 宝飾職人　ジュエリー会社販売製造勤務を経て　Burning John（ シルバーアクセサリー工房）　代表　特注装飾品の制作を行っている。

科目名　:　専門技術演習（鋳造演習Ⅳ）

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: ２年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 摸刻やセット物制作の課題を通して、複合的な技法を用いた制作を行う。

■到達目標: 鋳造技法による制作を行う。ベーシックなアイテム（リング、ネックレス、ブレスレット）を講師による指定サンプル通りに制作する取り組みと、オリジナル作品を制作。

■授業計画:

第1回　ベーシックアイテム制作　石止め、透かし彫りを施したリングサンプルから選ぶ。サンプルの制作手順を解説
第2回　摸刻①:ワックス成形
第3回　摸刻②:ワックス成形　厚み、立体感、細部の作りこみを中間チェック。
第4回　摸刻③:ワックス成形
第5回　鋳造仕上げ作業:鋳込み作業から研磨を行い、提出。
第6回　オリジナル制作:セットものの制作。銀主体で、ネックレス（チョーカーやペンダント）リング、ブレスレット（バングル等）ピアス（イヤリング、イヤーカフ等）から2アイテムのセットものを制作。
第7回　デザイン①:ラフ案から製図作成
第8回　デザイン②:中間チェック　ワックス制作
第9回　試作①:ワックス成形、彫金技法を用いて試作を行う。
第10回　試作②:ワックス成形、彫金技法を用いて試作を行う。
第11回　成形①:ワックス原型作り　チェーンやパーツなどの組み合わせも考える。
第12回　成形②:ワックス原型作り　チェーンやパーツなどの組み合わせも考える。
第13回　成形③:ワックス原型作り　チェーンやパーツなどの組み合わせも考える。
第14回　埋没・鋳込み:仕上げ、研磨作業。石留め。
第15回　合評:デザイン、仕上げ等の寸評、考察。

■教科書: 指定なし
■参考書: 指定なし
■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目:
■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 武田　享恵　（非常勤講師）
実務経験: 金工家　金属品製造会社にて修行後　銅、アルミ 、錫製の特注茶道具、オリジナル工芸品を制作販売。展示会多数開催。

科目名 : 専門技術演習（金工演習Ⅳ）

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: ２年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 伝統工芸品の制作とし、彫金技法の修得を目指す。

■到達目標: 金属の加工法、彫金の応用技術の中で、象嵌技法、杢目金の技法に取り組む。
金属の特性を活かした接合法（鍛接）の技術を習得。

■授業計画:

第1回 象嵌・地金制作：ささぶきを溶解し、純銀、四分一の地金を制作。バーナーを使用し、ささぶきを溶解。ささぶきの様子を見ながら塊になった銀をローラーを使い線状にして行く。
第2回 象嵌・デザイン：・箱のふたを画面とし、線と点、面で構成をする。
第3回 象嵌・毛彫り：使用する道具とその手入れ法の説明。使い方のデモンストレーション。彫る練習とともに、ケン先たがねの刃を正しく、研ぐ。
第4回 象嵌・毛彫り：けがいた線に沿い彫る。
第5回 象嵌実制作①：銀線、または面材を嵌め込む。銀線をなます。毛彫りの均一の深さ。
第6回 象嵌実制作②：銀線、または面材を嵌め込む。
第7回 象嵌実制作③：銀線、または面材を嵌め込む。
第8回 象嵌・着色前の下処理：・ヤスリで磨く＃1000番まで表面を均一にする。
第9回 象嵌・着色：煮色技法で着色。薬品の調合、着色作業。何回か行う。
第10回 杢目金・地金準備：赤銅と純銀の板材を指定した面積、枚数にカット。研磨。
第11回 杢目金・接合：交互に重ねた板を器具に挟み、バーナーで接合。
第12回 杢目金・彫り：接合したブロックを板状に叩きのばす。しゃくり鏨、毛彫り鏨、ドリルで穴やへこみを作りさらに叩きのばすことで木目の柄になる。
第13回 木目金・成形①：杢目金を材にしてリング、ペンダントトップ、バングルなど、装飾品、小物を制作。
第14回 木目金・仕上げ②：研磨。着彩。
第15回 合評：象嵌作品、杢目金さ作品の提出

■教科書: 指定なし

■参考書: 杢目金の教科書（日本杢目金研究所）ほか

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 清水　宏晃　（非常勤講師）
実務経験: 木工家　木の家具代表　木材業で製造職を経て、特注家具、オリジナル木製品を制作販売。

科目名　:　専門技術演習(木工演習Ⅴ)

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: ２年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 成形合板、曲木など技法へのチャレンジ制作。より技術の向上を図る。課題：曲げわっぱ（シェーカー様式）薄単板使用。

■到達目標: 曲げわっぱにおいては素材の柔軟性などを体感して素材に対しての理解を深める。伝統工芸品でもあるが、もともと道具としての側面が強い生活工芸品であり、機能性と形態の関係も学ぶ。

■授業計画:

第1回　課題説明・手工具管理:刃物の砥ぎ方やカンナの作り方。
第2回　木取り、曲げ木①:曲げわっぱの制作説明、曲げ木の手法説明。曲木の部材作り。
第3回　木取り、曲げ木②:曲木の部材作り。バンドソー、昇降盤など木工機械の取り扱いの確認、安全指導。
第4回　木取り、曲げ木③:曲木の部材作り。
第5回　成形練習①:単板の曲げ加工。蒸した板を治具に沿わせる。
第6回　成形練習②:単板の曲げ加工。蒸した板を治具に沿わせる。
第7回　成形練習③:銅釘を使った組み立て。
第8回　成形①:曲木の部材作り。
第9回　成形②:単板の曲げ加工。蓋と本体を制作
第10回　成形③:単板の曲げ加工。蓋と本体を制作
第11回　成形④:単板の曲げ加工。蓋と本体を制作
第12回　仕上げ①:細部の処理。縁のやすり掛け。
第13回　仕上げ②:細部の処理。縁のやすり掛け。
第14回　仕上げ③:人体に影響のない塗装(オイル塗装)
第15回　合評

■教科書: 指定なし
■参考書: 指定なし
■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目:
■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 高橋　幸一　（非常勤講師）
実務経験: 宝飾職人　ジュエリー会社販売製造勤務を経て　Burning John（ シルバーアクセサリー工房）　代表　特注装飾品の制作を行っている。

科目名　:　専門技術演習（鋳造演習Ⅴ）

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: ２年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 演習課題を通して、応用的な技術習得を目指す。現代のジュエリー、アクセサリーの幅の広さを学ぶ。完成した作品は札幌貴金属組合の主催する展覧会に出品し、鑑賞者やプロの職人、作家など外部からの評価も得ることができる。ただし成績に関しては授業担当の講師が評定するものとする。

■到達目標: 現代のジュエリー、アクセサリー制作は、どの時代風にもデザインが可能であり、新素材の使用など多様な変容を遂げている。この授業では、異素材を用いて装身具製作を行うものとするが、狙い通りに完成するか、制作を通して実験、研究の成果を分析し、卒業制作へのステップとする

■授業計画:

第1回　異素材の装身具製作:課題の概要説明　銀＋αでの考え方。
第2回　校外学習:異素材のアイデアをフィールドワークにて学習。自然素材の観察、ホームセンターにある素材や部品の見学
第3回　デザイン①:ワックスでの試作　異素材の使用により、重心やバランス、接合の仕方など吟味する
第4回　デザイン②:ワックスでの試作　コンセプトを異素材の組み合わせをチェック
第5回　デザイン③:ワックスでの試作　中間発表
第6回　試作①:一回目の鋳造を行い、異素材とのマッチ感を確認。仕上げまでの手順の吟味
第7回　試作②:引き続き、異素材とのマッチ感を確認。仕上げまでの手順の吟味
第8回　試作③:引き続き、異素材とのマッチ感を確認。仕上げまでの手順の吟味
第9回　本制作①:ワックス成形、彫金技法を用いて試作を行う。
第10回　本制作②:ワックス成形、彫金技法を用いて試作を行う。
第11回　埋没・鋳込み
第12回　仕上げ①:仕上げ、研磨作業。石留め。
第13回　仕上げ②:仕上げ、研磨作業。石留め。
第14回　仕上げ③:仕上げ、研磨作業。石留め。
第15回　合評:デザイン、仕上げ等の寸評、考察。完成、提出の後、展覧会出品の準備

■教科書: 指定なし
■参考書: 指定なし
■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目:
■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 菱野　史彦　（非常勤講師）
実務経験: 造形作家　金属加工職勤務を経て、工房ハンマーヘッド　代表　住宅金属製品(門、螺旋階段など)、調理品の特注制作のほか、造形作品の展覧会多数開催

科目名　:　専門技術演習(金工演習Ⅴ)

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: ２年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 金属の溶接技法を用いて鉄素材ではミニチュアハウスを制作。銅素材では器を製作。様々な溶接方法の理解を深める。

■到達目標: 鉄、アルミニウムやステンレスと銅と身近にある金属素材の溶接技術を身につけそれぞれの金属の特性を知る。溶接技術の習得。多様な製作方法があることを知る。

■授業計画:

第1回	溶接技法について・溶接演習①:溶接機の種類、一般的な溶接の用途のほか素材別溶接技術の違いなどを知る。コンタマシーンで練習用材料の切り出しなどを行う。被覆アーク溶接機を使い鉄の溶接練習。
第2回	溶接技法について・溶接演習②:コンタマシーンで練習用材料の切り出しなどを行う。TIG溶接機を使い鉄,ステンレスの溶接練習。
第3回	溶接技法について・溶接演習③:コンタマシーンで練習用材料の切り出しなどを行う。TIG溶接機を使い銅、アルミニウムの溶接練習。
第4回	ミニチュアハウスデザイン:溶接技術を踏まえ架空の家を建てるイメージでデザインを起こす。資料等を使い製作方法を考えながらデザイン画、製図を作成。
第5回	制作演習①:必要な材料を選定し組み立て順序を考慮しながら必要な機械、工具を使用して順次加工する。
第6回	制作演習②:必要な材料を選定し組み立て順序を考慮しながら必要な機械、工具を使用して順次加工する。
第7回	制作演習③:必要な材料を選定し組み立て順序を考慮しながら必要な機械、工具を使用して順次加工する。
第8回	仕上げ:溶接に夜焼けや溶接後の処理をデザインに応じて仕上げる。必要であれば塗装加工、錆付け加工などを検討し仕上げを行う。
第9回	制作演習・講評:仕上げ加工。最終的に着色、磨き加工などを施し完成度を高める。 合評による振り返り。
第10回	銅器デザイン:形をデザインし展開図を考える。
第11回	制作演習①:必要な材料を切り出し成型加工。成型後つなぎ目を溶接加工。
第12回	制作演習②:鍛金加工(当て金を使い金槌で成型加工)で成型する。
第13回	制作演習③:(当て金を使い金槌で成型加工)で成型する。
第14回	仕上げ:仕上げ加工、均し加工、表面処理、色上げなど。
第15回	合評:それぞれ自分の作品について制作手順、工夫した箇所、上手く出来た所、上手く行かなかった所、等を説明してもらい、製作上の注意点、工夫すべき点のほか今後の制作のためのポイントを伝える。

■教科書: 指定なし

■参考書: トコトンやさしい溶接の本(日刊工業新聞社)

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 木村　一夢　（非常勤講師）
実務経験: 造形作家　画材、文具卸会社での販売、什器制作の実務経験を積む。特注家具、オリジナル装飾品制作販売。

科目名　: 専門技術演習(造形演習Ⅰ)

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: ２年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 異素材の組み合わせを行った造形作品の制作。昔からある素材、新素材と、現代では様々なものがあり、新しい造形を探るとともに、特殊な環境ではない場でも作ることのできる加工法の研究。

■到達目標: 異素材の組み合わせで小物制作。また新素材であるジェスモナイトを使った小物制作を行いアイデアや可能性を拡げる。

■授業計画:

第1回　課題悦明:木材以外の素材を実際の作品を紹介しながら授業の説明する。
第2回　デザイン①:素材の決定、作品のデザイン画を描く。
第3回　デザイン②:中間チェック。異素材の組み合わせの試作。
第4回　試作:組み合わせの試作。
第5回　本制作①:加工、組み立て。
第6回　本制作②:加工、組み立て。
第7回　本制作③:加工、組み立て。
第8回　本制作④:仕上げ。提出。
第9回　ジェスモナイト研究:立体造形用素材ジェスモナイトの使用方法の説明。
素材を使用して作品作りを行う。
第10回　デザイン:ジェスモナイトのみもしくは他の素材と組み合わせたデザインを考える。
第11回　試作:ジェスモナイトの実験
第12回　制作①:流し込みに使用する型を制作する。
第13回　制作②:加工
第14回　制作③:研磨
第15回　異素材の作品と合わせて合評

■教科書: 指定なし

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 木村　一夢　（非常勤講師）
実務経験: 造形作家　画材、文具卸会社での販売、什器制作の実務経験を積む。特注家具、オリジナル装飾品制作販売。

科目名 : 専門技術演習(造形演習Ⅱ)

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: ２年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 組み木の木製品制作に取り組む。合板の種類、特性を知り、造形表現の可能性を探る。

■到達目標: 課題１として合板から玩具、オブジェを制作し材料の特性を把握。課題２として、からくり作品を制作。動的な要素を研究し、作品として発表。

■授業計画:

第1回　組き木:合板と無垢材との違い、形状の安定、加工においての強みを解説。
第2回　デザイン:組き木を生かしたデザイン。ラフ画から図面作成。
第3回　デザイン:中間チェック　材料選定。
第4回　造形:木取り、部材加工
第5回　造形:組み立て
第6回　造形:仕上げ、塗装
第7回　合評
第8回　からくり作り:動力の仕組みを研究　チームに分かれて歯車等の制作。
第9回　からくり作り:動力の仕組みを発表
第10回　からくり作り:デザインを行う。動く、揺れる、回転などワンアクションを入れる。
第11回　からくり作り:造形作業　木材、金属素材などの選定
第12回　からくり作り:造形作業　部材加工
第13回　からくり作り:仕上げ、研磨
第14回　からくり作り:仕上げ、塗装
第15回　合評

■教科書: 指定なし
■参考書: 摩訶不思議図鑑(有馬玩具博物館)
■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目:
■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 桂　充子　（専任教員）
実務経験: 北海道教育大学美術科卒業　彫刻家　道展・会員　前職では文具画材の販売管理、広告制作部門勤務。

科目名　: 専門技術演習(素材研究Ⅰ)

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: ２年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 素材理解を深める授業。課題としては実験的な制作、素材の加工を行い、そこから得られる気づきや発見を発表する。

■到達目標: 能動的学習形態として、対象の調査、表現の工夫を自ら構築できる演習課題に取り組む。
調査では表現に伴う幅広い収集への取り組み、表現の工夫では情報の優先順位付け、意見交換をすることで、研究成果（制作状況と成果物）の客観性を享受する。

■授業計画:

第1回　染色について①:染色についての基本知識を講義　絞り染め、ろうけつ染めから選択し、その方法を調べる。制作日までの道具や素材を用意する。
第2回　染色について②:染色液の製造。木材チップから煮だして色素液を抽出
第3回　染色について③:染色液の媒染材の調査
第4回　染色について④:絞り染めによる染色。
第5回　染色について⑤:研究発表
第6回　染色について⑥:振り返りを行いデータ資料化する。
第7回　腐食について①:腐食についての基本知識を講義　。薬品や素材、その方法を調べる。制作日までの道具や素材を用意する。
第8回　腐食について②:真鍮の腐食を行う。板材にマスキングを施し、薬品に浸す。経過時間を観察し取り出す。
第9回　腐食について③:腐食された金属を研磨、着彩。
第10回　腐食について④:研究発表
第11回　腐食について⑤:振り返りを行いデータ資料化する。
第12回　低温度鋳造について①:錫やホワイトメタルなど低温融点を利用した鋳造についての基本知識を講義。技法や素材、その方法を調べる。制作日までの道具や素材を用意する。
第13回　低温度鋳造について②:鋳造作品の型作りを行い、鋳造作業。
第14回　低温度鋳造について③:研磨仕上げ。
第15回　低温度鋳造について④:振り返りを行い、データ資料化する。

■教科書: 指定なし

■参考書: 指定なし

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 桂　充子　（専任教員）
実務経験: 北海道教育大学美術科卒業　彫刻家　道展・彫刻部会員　前職では文具画材の販売管理、広告制作部門勤務。

科目名 : 専門技術演習(素材研究Ⅱ)

履修形態: 選択
授業形態: 演習
履修学年: ２年次
開講学期: 前期
授業時数: ６０時間
単　　位: ２単位

■科目概要: 立体造形のなかで、彫刻的要素の強い、ブロンズ鋳造と野焼き（やきもの・テラコッタ）の取り組みから素材の特性を学ぶ。

■到達目標: 研究活動。作品の原型を蝋材で制作後、耐火石膏の型に埋没し、融解したブロンズを鋳込む一連の制作をおこない、作品の成り立ちにおいて、実材だけではなく様々な物質や素材の役割を知る。野焼きでは原始的な焼成を通して土だけではなくもみ殻や炭なども含めた熱変する物質の特性を知る。

■授業計画:

第1回　ブロンズ鋳造①:イタリア式鋳造の解説。精密鋳造との違い。
第2回　ブロンズ鋳造②:蝋材づくり。松脂、パラフィン、蜜蝋をブレンド。
第3回　ブロンズ鋳造③:蝋材で原型制作。
第4回　ブロンズ鋳造④:湯道、湯口など、型の仕組みを解説。
第5回　ブロンズ鋳造⑤:湯道付け。イタドリといった植物素材も使用。
第6回　ブロンズ鋳造⑥:耐火石膏埋没作業　石膏とシャモットを使用し耐火石膏を製造。
第7回　ブロンズ鋳造⑦:鋳込み
第8回　ブロンズ鋳造⑧:湯道を工具ではずし、仕上げる。
第9回　ブロンズ鋳造⑨:研究のまとめ。振り返りを行い資料化する。
第10回　野焼き・テラコッタ①:野焼き・テラコッタについて解説。
第11回　野焼き・テラコッタ②:粘土成形。シャモット混合の土を素材とする。
第12回　野焼き・テラコッタ③:乾燥　野焼き準備
第13回　野焼き・テラコッタ④:焼成活動　石狩浜で焼成
第14回　野焼き・テラコッタ⑤:作品の振り返り
第15回　研究資料をまとめ、データ資料化

■教科書: 指定なし
■参考書: 指定なし
■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。
■関連科目:
■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 桂　充子 他　（専任教員 ， 非常勤講師）
実務経験:

科目名 :	進級制作

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １ 年次
開講学期: 後期
授業時数: １８０ 時間
単　　位: ６ 単位

■科目概要: 一年間の学業で身に付けた専門知識と技術を集大成した作品を制作する

■到達目標: 一年間の学習の成果が充分に発揮できている作品を完成させる

■授業計画:

第1回　講師打合せ(1) 各課題の内容を確認し、制作内容を各担当講師と打合せる
第2回　講師打合せ(2)
第3回　講師打合せ(3)
第4回　実制作(1) 打合せ内容に基き作品制作を行う
第5回　実制作(2)
第6回　実制作(3)
第7回　実制作(4)
第8回　実制作(5)
第9回　制作内容確認　中間成果物に対して担当講師による内容確認を受ける
第10回　ブラッシュアップ(1)
第11回　ブラッシュアップ(2)
第12回　ブラッシュアップ(3)
第13回　ブラッシュアップ(4)
第14回　プレゼンテーション準備　審査会に向けて発表資料を作成する
第15回　進級制作審査会　作品のプレゼンテーションを行い作品の評価を受ける

■教科書:

■参考書:

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 桂　充子 他　（専任教員 ， 非常勤講師）
実務経験:

科目名 :	卒業制作

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: ２ 年次
開講学期: 後期
授業時数: ４５０ 時間
単　　位: １５ 単位

■科目概要: 二年間の学習で身につけた専門知識と技術の集大成となる作品を制作する

■到達目標: 実力を充分に発揮したと社会的に評価されるレベルの作品を完成させる

■授業計画:

第1回　コンセプトメイキング　作品のターゲットとテーマを設定する
第2回　講師打合せ　担当講師と制作内容を確認
第3回　一次審査提出作品制作(1)
第4回　一次審査提出作品制作(2)
第5回　一次審査提出作品制作(3)
第6回　一次審査提出作品制作(4)
第7回　プレゼンテーション準備　一次審査に向けての資料作成
第8回　一次審査　プレゼンテーション
第9回　一次審査フィードバック　講評内容と今後の方向性の確認
第10回　最終審査提出作品制作(1)
第11回　最終審査提出作品制作(2)
第12回　最終審査提出作品制作(3)
第13回　最終審査提出作品制作(4)
第14回　最終審査提出作品制作(5)
第15回　最終審査　プレゼンテーション

■教科書:

■参考書:

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 宮崎昭人 （非常勤講師）
実務経験: Just English Press Ltd.代表取締役。翻訳業務(観光・ビジネス・科学・法務分野等)
海外との遣取代行、外国語コンテンツ制作、企業向け英会話講座

科目名 : 英語

履修形態: 必修
授業形態: 講義
履修学年: １年次
開講学期: 前期
授業時数: ３０時間
単　　位: １単位

■科目概要: 義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する

■到達目標: 英語力の自信を深め、自力でも能力を高めることができるようになるとともに、交換留学生などと積極的に異文化交流ができるような教養を育む

■授業計画:

第1回　はじめに:仕事のシーンで間違った英語を使ってしまわない感覚を磨く
第2回　身の回りの英語:会社名、ブランド名、商品名に使われている英語の意味
第3回　英会話基礎:日本語の中の外来語の多さを理解し、英会話の基礎を学ぶ
第4回　品詞の理解:辞書の使い方
第5回　品詞別重要ポイント①:名詞、冠詞、代名詞の正しい使い方
第6回　スペルミス防止:作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
第7回　品詞別重要ポイント②:動詞(be動詞、一般動詞)、助動詞の使い方
第8回　スペルミス防止:作品のタイトル、チラシ、ポスター、看板等に見られる誤表記事例
第9回　品詞別重要ポイント③:接続詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の使い方
第10回　翻訳:翻訳の種類(直訳、意訳、超訳とはどのようなものかを理解する)
第11回　翻訳:自動的に翻訳される機械翻訳の問題点を理解し、使い方のコツを習得
第12回　自己紹介
第13回　口語英語表現、英語を必要とする様々なシーン
第14回　日常で使用する英語:住所表記、入国カード、日本食の英語表現
第15回　まとめ

■教科書: プリント配布

■参考書: 辞書があれば望ましい

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点:

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 桂　充子　（専任教員）
実務経験:

科目名　: 一般教養

履修形態: 必修
授業形態: 講義＋演習
履修学年: １年次
開講学期: 前期
授業時数: ３０時間
単　　位: １単位

■科目概要: 社会人としての一般教養、常識、礼儀を学ぶ。

■到達目標: ビジネス能力検定3級（または希望者2級）の取得

■授業計画:

第1回　ビジネスコミュニケーションの基本:教科書第1章から第3章まで、解説。
第2回　ビジネスコミュニケーションの基本:教科書第4章から第7章まで、解説。
第3回　ビジネスコミュニケーションの基本:ミニテスト
第4回　仕事の実践とビジネスツール:教科書第1章から第3章まで、解説。
第5回　仕事の実践とビジネスツール:教科書第4章から第6章まで、解説。
第6回　仕事の実践とビジネスツール:ミニテスト
第7回　ビジネス用語、調べ学習。
第8回　ビジネス用語、発表。
第9回　グラフ問題の読み解き。練習問題の取り組み。
第10回　新聞からの情報収集①　記事をみつけて背景を探るグループワーク。「地域の話題」
第11回　新聞からの情報収集②　記事をみつけて背景を探るグループワーク。プレゼンシート作
第12回　新聞からの情報収集③　記事をみつけて背景を探るグループワーク。プレゼンシート作
第13回　新聞からの情報収集④発表
第14回　ビジネス検定試験対策①過去問題に取り組む。
第15回　ビジネス検定試験対策②解答解説。

■教科書: ビジネス能力検定3級　公式テキスト

■参考書:

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 桂　充子　（専任教員）
実務経験:

科目名 :	前期課題制作(1年次)

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １年次
開講学期: 前期
授業時数: ３０時間
単　　位: １単位

■科目概要: 日常の講義や演習を通して学んだ発想、技法を活かし、前期のまとめとして課題制作を行う。

■到達目標: 必要な資料を収集するリサーチ能力や、多様な視点から発想を広げて具体的な表現に展開する力を身に付ける。

■授業計画:

第1回　リサーチ
第2回　収集情報の分析
第3回　アイディア出し
第4回　アイディア出し
第5回　サムネイル制作
第6回　サムネイル制作
第7回　成果物チェック
第8回　実制作
第9回　実制作
第10回　実制作
第11回　実制作
第12回　実制作
第13回　ブラッシュアップ
第14回　プレゼンテーション・講評会
第15回　全体の振り返り・まとめ

■教科書:

■参考書:

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 桂　充子　（専任教員）
実務経験:

科目名 :	前期課題制作(2年次)

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: ２ 年次
開講学期: 前期
授業時数: ３０ 時間
単　　位: １ 単位

■科目概要: 日常の講義や演習を通して学んだ発想、技法を活かし、前期のまとめとして課題制作を行う。

■到達目標: 必要な資料を収集するリサーチ能力や、多様な視点から発想を広げて具体的な表現に展開する力を身に付ける。

■授業計画:

第1回　リサーチ
第2回　収集情報の分析
第3回　アイディア出し
第4回　アイディア出し
第5回　サムネイル制作
第6回　サムネイル制作
第7回　成果物チェック
第8回　実制作
第9回　実制作
第10回　実制作
第11回　実制作
第12回　実制作
第13回　ブラッシュアップ
第14回　プレゼンテーション・講評会
第15回　全体の振り返り・まとめ

■教科書:

■参考書:

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 桂　充子　（専任教員）
実務経験:

科目名　:	後期課題制作

履修形態: 必修
授業形態: 演習
履修学年: １年次
開講学期: 後期
授業時数: ３０時間
単　　位: １単位

■科目概要: 日常の講義や演習を通して学んだ発想、技法を活かし、前期のまとめとして課題制作を行う。

■到達目標: 必要な資料を収集するリサーチ能力や、多様な視点から発想を広げて具体的な表現に展開する力を身に付ける。

■授業計画:

第1回　リサーチ
第2回　収集情報の分析
第3回　アイディア出し
第4回　アイディア出し
第5回　サムネイル制作
第6回　サムネイル制作
第7回　成果物チェック
第8回　実制作
第9回　実制作
第10回　実制作
第11回　実制作
第12回　実制作
第13回　ブラッシュアップ
第14回　プレゼンテーション・講評会
第15回　全体の振り返り・まとめ

■教科書:

■参考書:

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン専攻
担当教員: 桂　充子　（専任教員）
実務経験:

科目名 :	企業研究

履修形態: 必修
授業形態: 講義＋演習
履修学年: ２ 年次
開講学期: 後期
授業時数: ３０ 時間
単　　位: １ 単位

■科目概要: 就職活動へ活用する、事前の企業研究。情報の収集の手立てを知り、業務内容や社風、採用試験などのデータをまとめ、理解を深める。

■到達目標: 応募しようとする企業が持つ、強みや方向性に共感できるよう、明確な志望動機を持ち、選考突破への可能性を広げる。

■授業計画:

第1回　就活マニュアルの解説
第2回　就職希望調査票提出
第3回　キャリアサポート面談①
第4回　最新の技術を知る:講習会参加①
第5回　最新の技術を知る:講習会参加②
第6回　最新の技術を知る:講習会参加③
第7回　最新の技術を知る:講習会参加④
第8回　キャリアサポート面談②
第9回　自己分析
第10回　自己分析
第11回　エントリーシートの書き方　電話のかけ方　メールの送信、受信のマナー
第12回　身だしなみ、挨拶、言葉遣い:面接練習
第13回　履歴書の書き方
第14回　WEB応募の解説
第15回　会社訪問

■教科書:

■参考書: ビジネス能力検定　公式テキスト　など

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点

対象学科: 環境デザイン学科
対象専攻: クラフト デザイン 専攻
担当教員: 桂　充子　（専任教員）
実務経験:

科目名　: 業界研究

履修形態: 必修
授業形態: 講義＋演習
履修学年: ２ 年次
開講学期: 後期
授業時数: ６０ 時間
単　　位: ２ 単位

■科目概要: 就職活動へ活用する、事前の業界研究。方向性を絞っていく情報の収集の手立てを知り、業界全体をとらえ、業界ごとの特徴を理解する。

■到達目標: 様々なビジネスモデルを知ることで、社会構成の理解につながる。また企業選択の幅を広げることを目的とする。

■授業計画:

第1回　ものづくり業界（製造業、販売・サービス業、企画・営業　）の種類や企業の数を調べる。
第2回　ものづくり業界の企業ごとの特徴を調べる。
第3回　ものづくり業界のまとめ。発表。
第4回　クラフトマーケットに参加し、企画、販売の実践的なスキルを身につける。
第5回　卒業生からの仕事紹介。現場の仕事の詳細を知る①
第6回　見本市、講習会：現場見学で、業界からの話を直に聞き、仕事内容の理解を進める
第7回　振り返り、意見交換
第8回　工場見学、会社訪問：現場見学で、仕事内容の理解を進める
第9回　振り返り、意見交換
第10回　卒業生からの仕事紹介。現場の仕事の詳細を知る②
第11回　産官学連携の活動①　地域の問題を理解し、産業と業界の関わり合いを学ぶ
第12回　産官学連携の活動②　地域の問題を理解し、産業と業界の関わり合いを学ぶ
第13回　産官学連携の活動③　地域の問題を理解し、産業と業界の関わり合いを学ぶ
第14回　産官学連携の活動④　地域の問題を理解し、産業と業界の関わり合いを学ぶ
第15回　工作ワークショップを行い、企画、サービスの実践的なスキルを身につける。

■教科書:

■参考書:

■成績評価: 出席状況、取り組み姿勢、提出課題作品の達成度、等を総合的に評価する。

■関連科目:

■履修上の留意点